



マネ育スクール 中級編

「自律型トレーダーの完成」

マネーを育てよう。マネ育。

店頭外国為替保証金取引および店頭通貨バイナリーオプション取引は元本や利益を保証するものではなく、相場の変動や金利差により損失が生ずる場合がございます。お取引の前に充分内容を理解し、ご自身の判断でお取り組みください。

<『外貨ネクストネオ』取引形態:店頭外国為替保証金取引 委託保証金:各通貨の基準レートにより計算された取引金額の保証金率4%以上に設定(法人のお客様は、保証金率1%以上となる額または金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの為替リスク想定比率を取引の額に乗じて得た額のうち、いずれか高い額以上の委託保証金が必要となります。為替リスク想定比率とは、金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第27項第1号に規定される定量的計算モデルを用い算出します) 売買手数料:0円【注】お客様がお預けになった保証金額以上のお取引額で取引を行うため、保証金以上の損失が出る可能性があります。また取引レートには売値と買値に差(スプレッド)が生じます。>

<『外貨ネクストバイナリー』取引形態:店頭通貨バイナリーオプション取引(満期である判定時刻をもって自動権利行使となるヨーロッパタイプ) 購入価格:1Lotあたり約40~999円 売買手数料:0円【注】店頭通貨バイナリーオプション取引は期限の定めのある取引であり、相場の変動等の要因により原資産価格が変動するため、予想が外れた場合には投資元本の全額を失うリスクの高い金融商品です。権利行使価格と判定価格との関係がお客様にとって利益となる場合には自動権利行使によりペイアウト額を得られますが、損失となる場合には権利消滅により全購入金額が損失として確定します。またオプションの購入価格と売却価格には差(スプレッド)が生じます。>





マネ育スクール中級編の目標

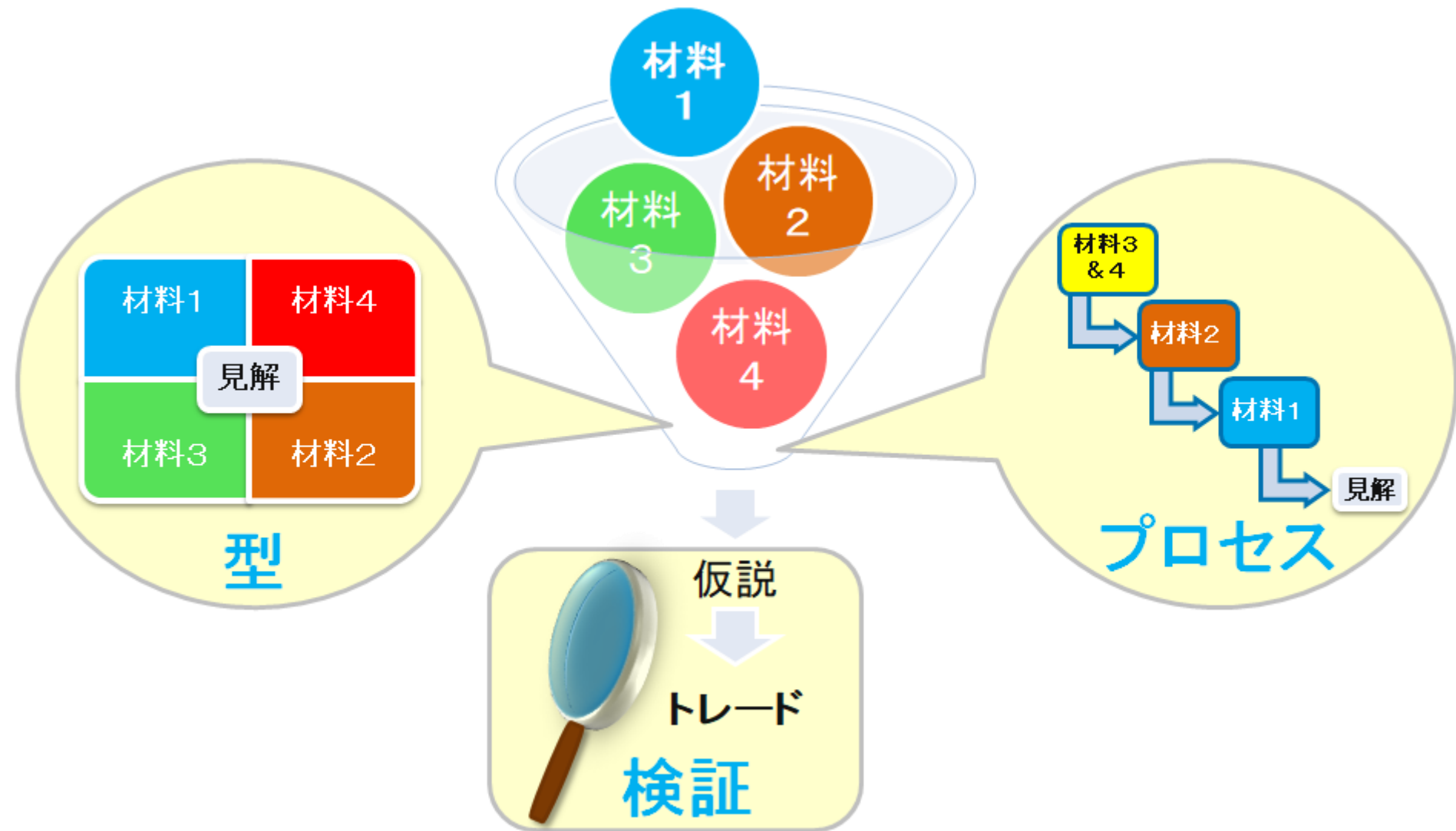
ここまでのマネ育スクールでは「外国為替保証金取引を始めることのできる知識」を習得しました。

これにつづくマネ育スクール中級編では、各種の状況に対応できるよう一定の前提知識を備え、それらを骨子に「自分で考え自分で判断ができるようになる」“自律型トレーダー”となることが目標です。

マネ育スクール						
マネ育スクール 上級編	各種演習と時事把握(随時公開)				各種ツールの 活用方法(随時公開)	
マネ育スクール 中級編 「自律型トレーダー の完成」	注文方法の 応用	ファンダメンタルズ 分析の前提知識	需給バランス 分析の前提知識	テクニカル 分析の前提知識	取引スタイル の理解と自覚	取引プロセス の定着
マネ育スクール 3限目 「テクニカル分析を 用いた取引手法」	チャートの 活用			テクニカル 分析基礎		収益 管理方法
マネ育スクール 2限目 「決済手法と 各種操作方法」	各種 注文方法基礎	ファンダメンタルズ 分析基礎	需給バランス 分析基礎		経験蓄積 方法基礎	
マネ育スクール 1限目 「外貨投資が ゼロからわかる！」	外国為替保証金取引の 基本知識					



自分で考え自分で判断が出来るように





1. 備えるべき前提知識

- ・大前提
- ・ファンダメンタルズ分析の前提知識
- ・需給バランス分析の前提知識
- ・テクニカル分析の前提知識
- ・注文方法の応用

2. 取引スタイルの理解と自覚

- ・取引スタイルとリスク管理
- ・スキャルピング～スイングトレード（小さな資金を、自分で働いて増やすスタイル）
- ・中長期トレード（中～大規模な資金を、資金自身に働かせて増やすスタイル）

3. 取引手順の定着

- ・取引の手順
- ・先人の教え

1. 備えるべき前提知識



外国為替保証金取引に有用な前提情報を知ること、
さまざまな情報を
適切に受け止めることができるようになります

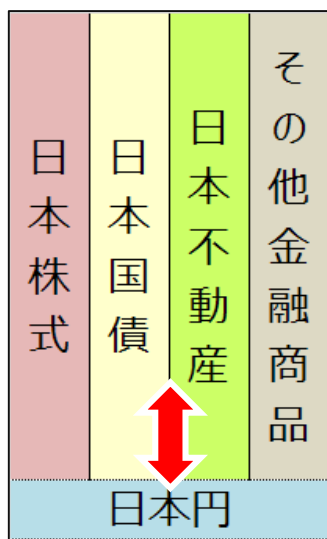
大前提



国内への投資と海外への投資の違い

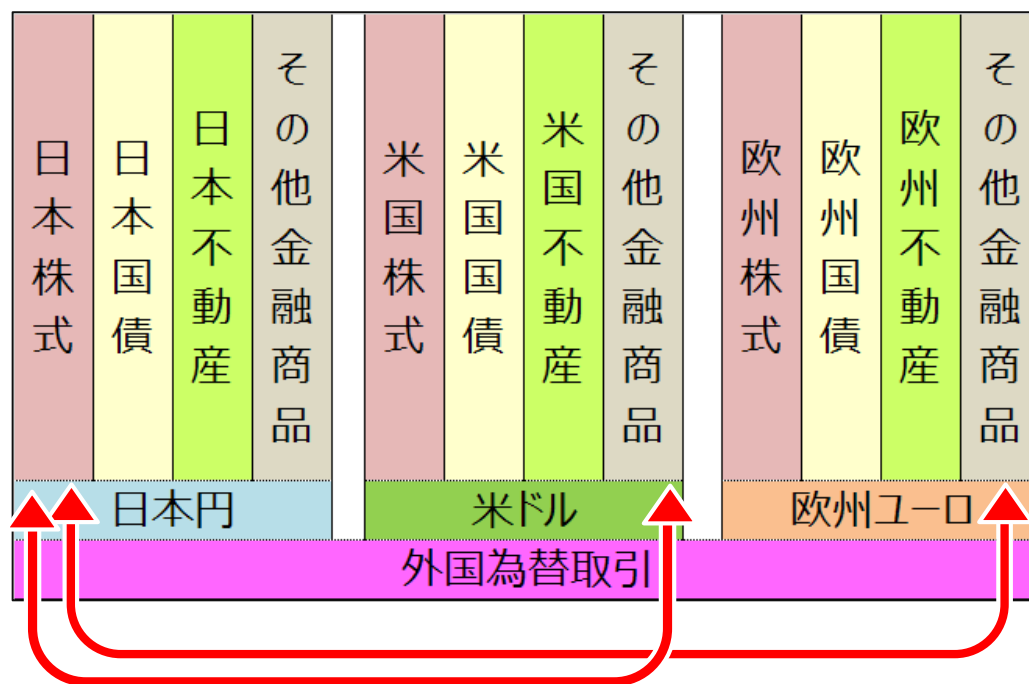


日本人が国内の市場に取り組む場合



日本円を任意の商品へ投入し、その結果を日本円で得る

日本人が海外の市場に取り組む場合



日本円を海外の通貨に交換してから任意の商品へ投入し、その結果得られた外貨を再び日本円に交換して国内へ戻す

国内への投資と海外への投資の違い



したがって...

◆各国通貨の先にある商品の市場

⇒主にその商品の動向で左右

⇒外国為替市場を

経由しない分、

値動きが比較的素直

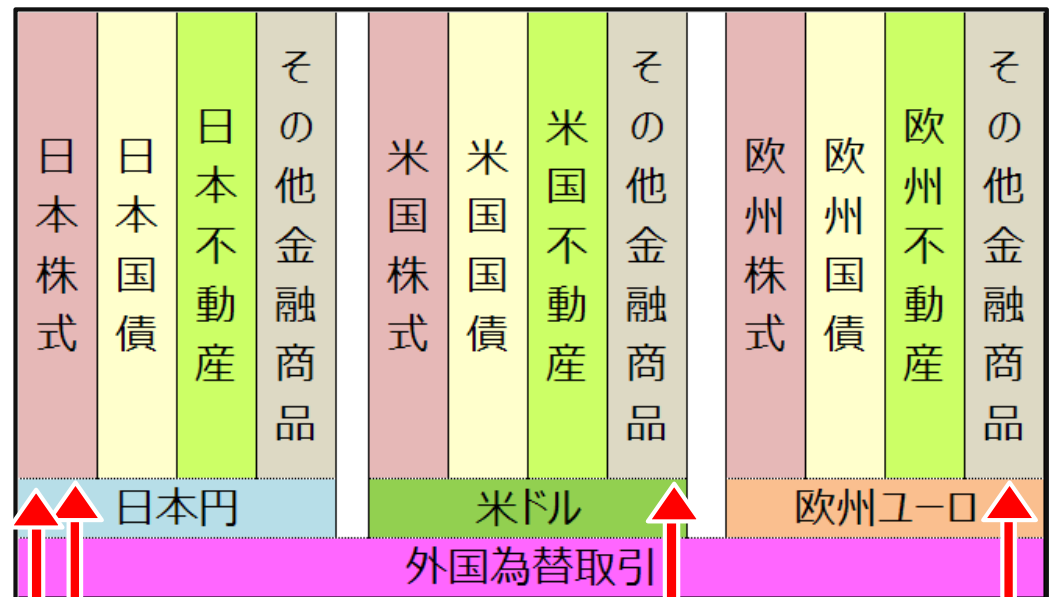
◆外国為替市場

⇒さまざまな要素で左右

⇒外国為替市場での動きのほか、

他市場の事情等も反映される

ため、値動きに少しくセができる



すべて
外国為替市場を経由



原因があるから結果が生まれる

備えるべき前提知識

外国為替市場へのインプット・アウトプット

外為どっとコム

input

情報

ニュース
イベント(発言・指標など)
天変地異

etc...

短期筋

FX(短期)
各種ファンド(短期)

etc...

実需・長期筋

貿易
M&A
リアルマネー(生保・年金基金・投資信託など)

etc...

外国為替市場

output

為替変動

ファンダメンタルズ分析の前提知識

ファンダメンタルズとは、相場を動かす基礎的な要因のことをいいます。
外国為替市場の相場におけるファンダメンタルズとは、
たとえば各国経済の基本的な状態や経済指標、金融政策などを指します。





「ファンダメンタルズ」ってどういうこと？

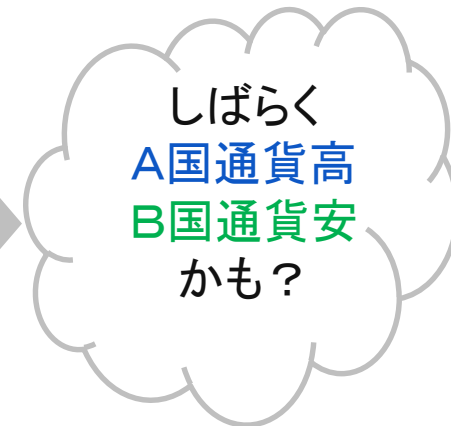
ファンダメンタルズとは、**相場を動かす基礎的な要因**のことをいいます。
ファンダメンタルズを理解・把握しておくことで、相場の予測に大きな力を発揮します。
……なぜ？

⇒外国為替市場の相場におけるファンダメンタルズとは、たとえば**各国経済の基本的な状態**や**経済指標**、**金融政策**などを指します。

一方で各国で使われている通貨の価値は、その国の背景となる状況（政治・経済・流行など）を基礎に上下しています。そのためその状況を解釈し、対象の通貨の特徴を浮き彫りにすることは、**相場の基本的な方向性**を見出すことにつながるのです。



VS

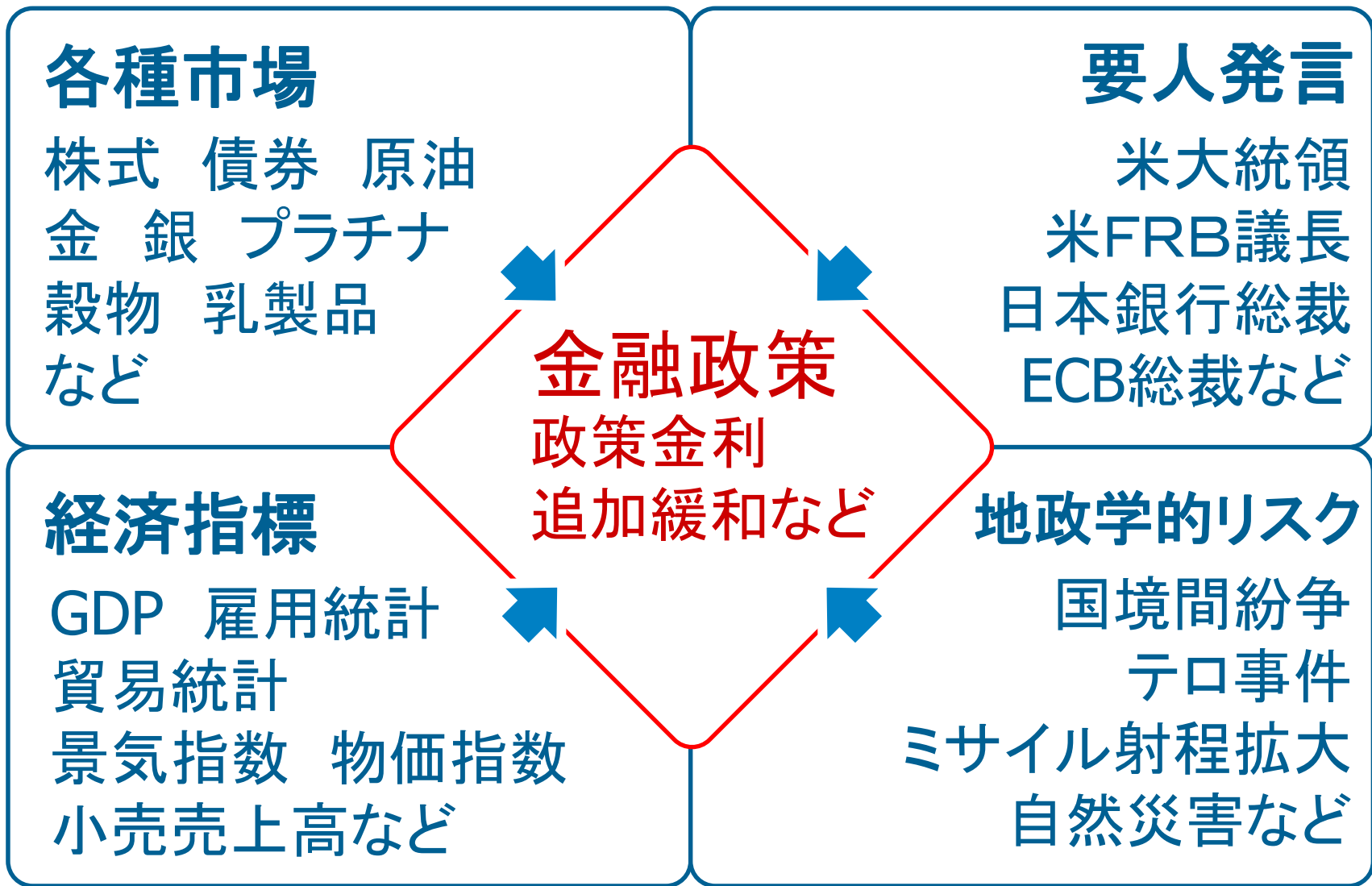


A国通貨の価値は
しばらく上がるのでは？

B国通貨の価値は
しばらく下がるのでは？



すべては金融政策へ織り込まれる！





なぜ金融政策に注目するのか？

なぜ金融政策に注目するのか？

⇒金融政策はインフレ率(※)をコントロールするためのものだから



インフレ率が高くなるということは、通貨の価値が安くなり、それまでより物価が高くなるということ(通貨安)
インフレ率が低くなるということは、通貨の価値が高くなり、それまでより物価が低くなるということ(通貨高)

※インフレ率とは？

⇒物価上昇率のこと。

(今年のCPI - 去年のCPI) ÷ 去年のCPI × 100 で算出されます(※)

※CPI: 消費者物価指数

2～3パーセント程度のインフレ率であれば、物価が安定していて好ましいとされますが、
例えば10%を超えるようなインフレ率では、物価が高くて自国の通貨でモノを買うことが困難になりますし、
0%を下回るようなインフレ率では、その国が成長しておらず、衰退していくとものみなされます。

したがって金融政策とは、インフレ率のコントロールを通して、
その国の経済状態を最適な状態へ誘導するための手段であると考えられます。

だからこそさまざまな出来事が、金融政策のなかではどのように判断されるのかに注目が集まるのです。



金融政策の種類やその効果

金融政策は以下のように、その国の「通貨の流通量を調節」することによって行われます。

◆インフレ率が低いため、これを上昇させたい時(景気後退時)

⇒金融政策:世の中の通貨量を増やす(=お金の価値が希薄化し通貨安へ)

- ・政策金利(※1)の引き下げによって、お金を借りやすくする
- ・量的緩和(※2)によって、世の中のお金の総量を増やす

⇒お金を世の中へ出回らせて、景気(お金のやりとり)を拡大

◆インフレ率が高いため、その上昇を抑えたい時(景気過熱時)

⇒金融政策:世の中の通貨量を減らす(=お金の価値が希少化し通貨高へ)

- ・政策金利の引き上げによって、お金を借りづらくする
- ・量的引き締め(※3)によって、世の中のお金の総量を減らす

⇒お金を世の中から回収して、景気(お金のやりとり)を縮小

※1:銀行間で短期に貸し借りする際の無担保の金利のことで、コールレートともいう。
一晩だけ借りて翌日返済するケースが多く、そのような取引をオーバーナイト物と呼ぶ。

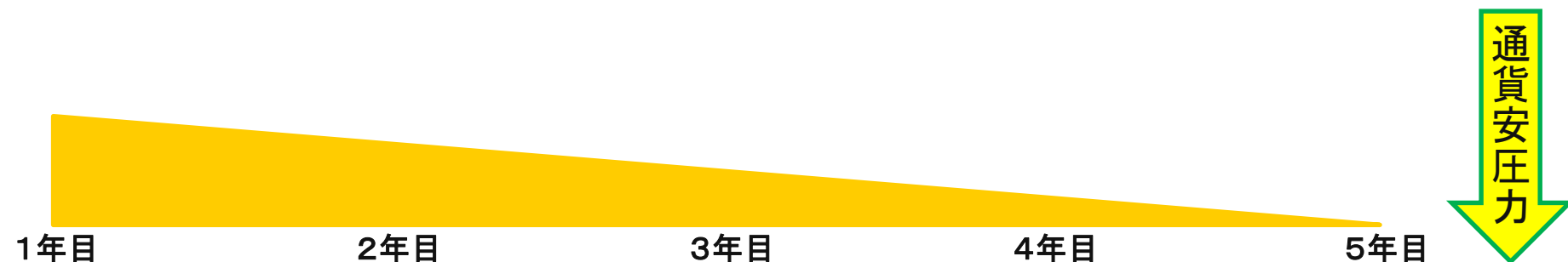
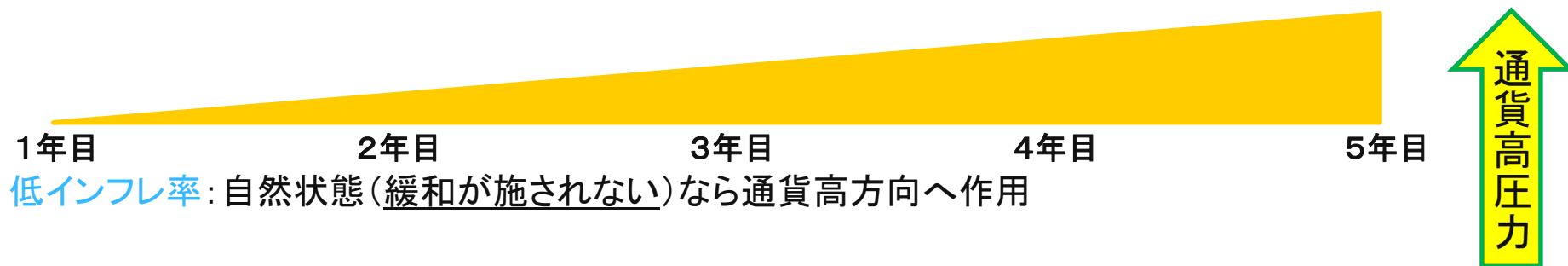
※2:公開市場操作によって中央銀行が、市場から債券等の有価証券を買い集めて、
その対価となる通貨を市場へ供給すること。買いオペレーションとも呼ぶ。

※3:公開市場操作によって中央銀行が、自己の保有する債券等の有価証券を市場に売却し、
その対価となる通貨を市場から回収すること。売りオペレーション、テーパリングとも呼ぶ。



インフレ率が為替相場へ及ぼす影響を把握する 外為どっとコム

インフレ率は、超長期的(複数年)な観点で為替相場へ作用している、といわれることがあります。そのためインフレ率をコントロールする金融政策が為替相場を眺める上でとても大切な材料になるのです。

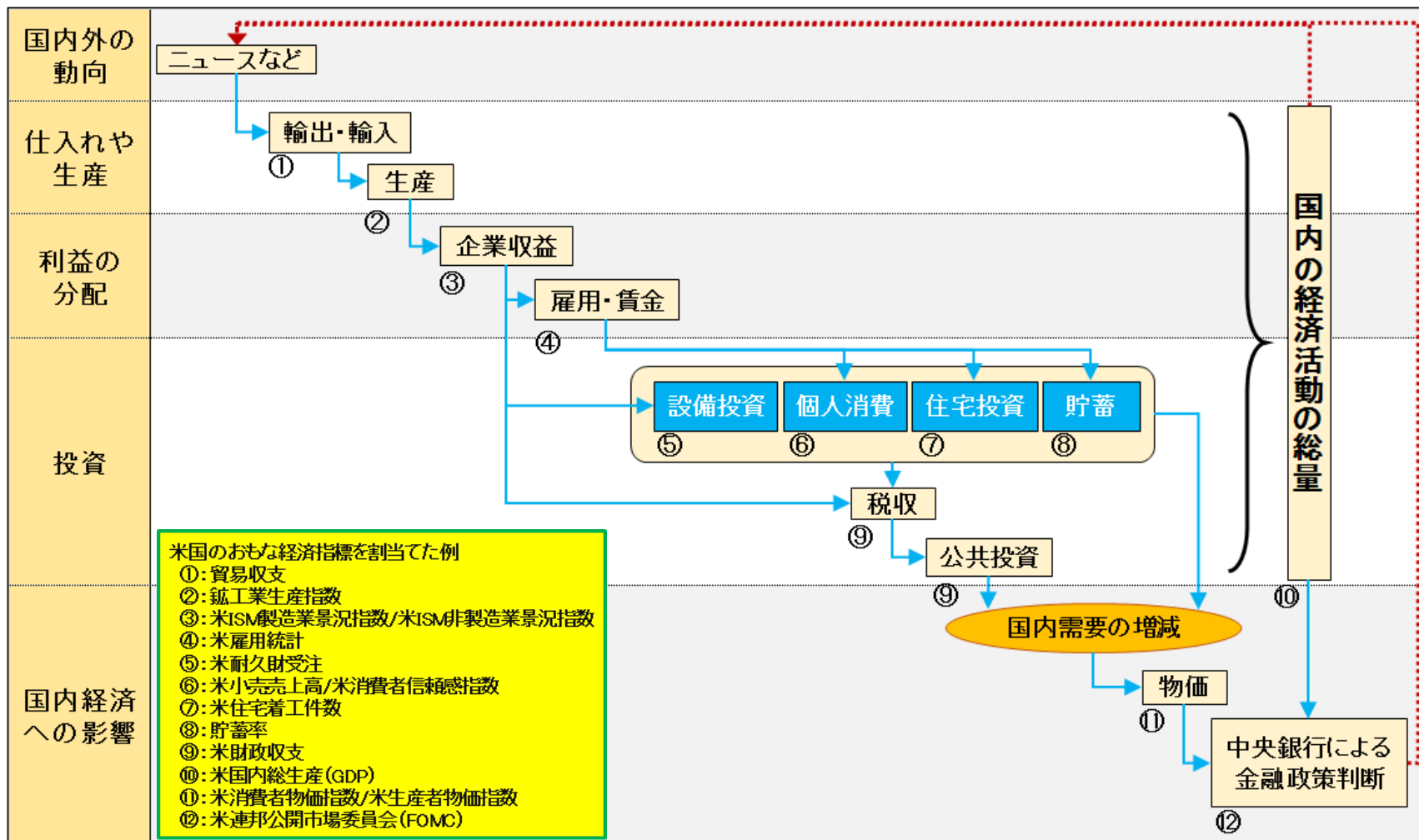




経済指標は密接に関係している

経済指標は各国の経済の動静を知ることの出来る便利な情報ですが、これらは単独で押さえていくのではなく、体系的に結びつけてその前後関係を推し量ることも肝要です。

神田卓也 著「いちばんやさしい為替の教本」より一部修正のうえ引用





(ご参考)

経済指標を確認できる場所

備えるべき前提知識



経済指標を把握するために、以下のサイトを活用して各国の経済状況概況を掴んでみましょう。

日本経済新聞「経済指標ダッシュボード」



<https://vdata.nikkei.com/economicdashboard/macro/>

総務省 統計局「統計ダッシュボード」



<https://data.e-stat.go.jp/dashboard/>



ドル/円 クロスチェックシート



瞬発的な判断をしたい方は、ファンダメンタルズを4象限へ整理し、下図のように構築しておきましょう。

【ドル安要因】

米財政懸念
米景気減速
低インフレ
利上げ先送り観測
ドル安誘導

【円安要因】

世界景気拡大
株価続伸
政局安定
対外投資活発化
低金利長期化観測



【ドル高要因】

米景気拡大
継続的利上げ
B/S縮小
リパトリ増加
FRBタカ派化

【円高要因】

地政学的リスク
株価調整
日銀出口観測
経常黒字

例えば...

ドル安要因が発生
⇒一時的なドル安へ

ドル安要因と円安要因が発生
⇒横ばい

ドル安要因と円高要因が発生
⇒ドル安円高のトレンド可能性

のように活用します

需給バランスの前提知識

需給バランスとは、
求める側の取引量と供給する側の取引量によって決まる価格のことで、
外国為替レートは、買いたい人と売りたい人の取引数量の多寡で変化しています。





需給バランスの理解はその瞬間の相場の主人公を見極めることから

備えるべき前提知識

インプットを分類して見極めることが大切

外為どっとコム

input

情報

ニュース
イベント(発言・指標など)
天変地異

etc...

短期筋

FX(短期)
各種ファンド(短期)

etc...

実需・長期筋

貿易
M&A
リアルマネー(生保・年金基金・投資信託など)

etc...

外国為替市場

外国為替市場へのインプットは、まずどの種類であるのかを適切に見極めることが肝要



情報がインプットされた時のアウトプット例

input

output

情報

ニュース
イベント(発言・指標など)
天変地異

etc...

短期筋

FX(短期)
各種ファンド(短期)

etc...

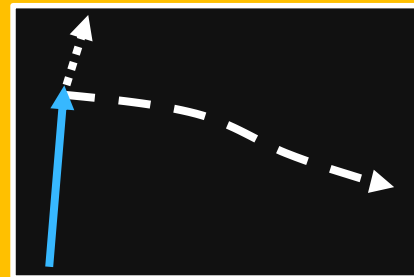
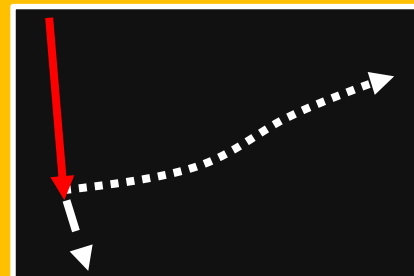
実需・長期筋

貿易
M&A
リアルマネー(生保・年金基金・投資信託など)

etc...

外国為替市場

さまざまな動きをするが、
発表直後は急激な動きになる傾向





型で把握:短期筋

短期筋がつくるアウトプット例

input

情報

ニュース
イベント(発言・指標など)
天変地異

etc...

短期筋

FX(短期)
各種ファンド(短期)

etc...

実需・長期筋

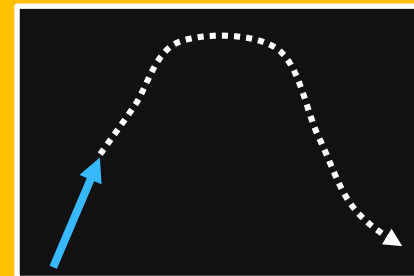
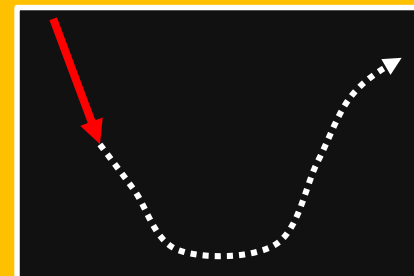
貿易
M&A
リアルマネー(生保・年
金基金・投資信託など)

etc...

外国為替市場

数時間から数週間かけて
元の水準へ戻ってくる傾向

output



実需・長期筋がつくるアウトプット例

input

output

情報

ニュース
イベント(発言・指標など)
天変地異

etc...

短期筋

FX(短期)
各種ファンド(短期)

etc...

実需・長期筋

貿易
M&A
リアルマネー(生保・年金基金・投資信託など)

etc...

外国為替市場

1日から数日間かけて
一方向へ進む傾向



為替市場に投入されるお金の運用主体

為替市場に投入されるお金は、その運用主体によって以下のように分類できます。

短期筋

さまざまな商品の短期的な値動きの見通しに沿って売買を繰り返す人のお金。
投機筋と呼ばれることもある。FXにおけるスキャルピングやデイトレードもここへ含まれる。

長期筋

さまざまな商品の中長期的な値動きや利回りなどの見通しに沿って売買をする人のお金。
リアルマネーと呼ばれる生保や年金基金、投資信託などのほか、
長期保有目的で調達される有価証券や不動産、企業買収等の投資に用いられるお金も含む。

実需筋

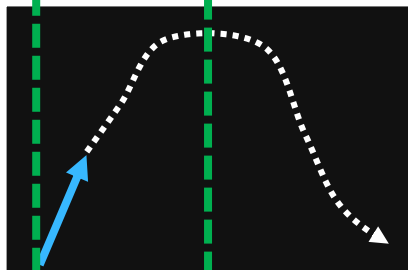
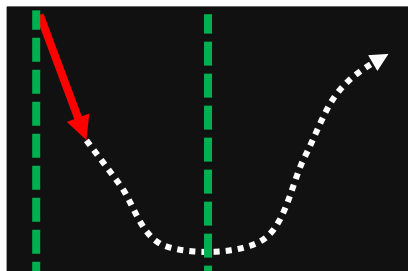
貿易を行った結果発生する、支払いや受け取りで用いられるお金。



お金の流れを押さえよう

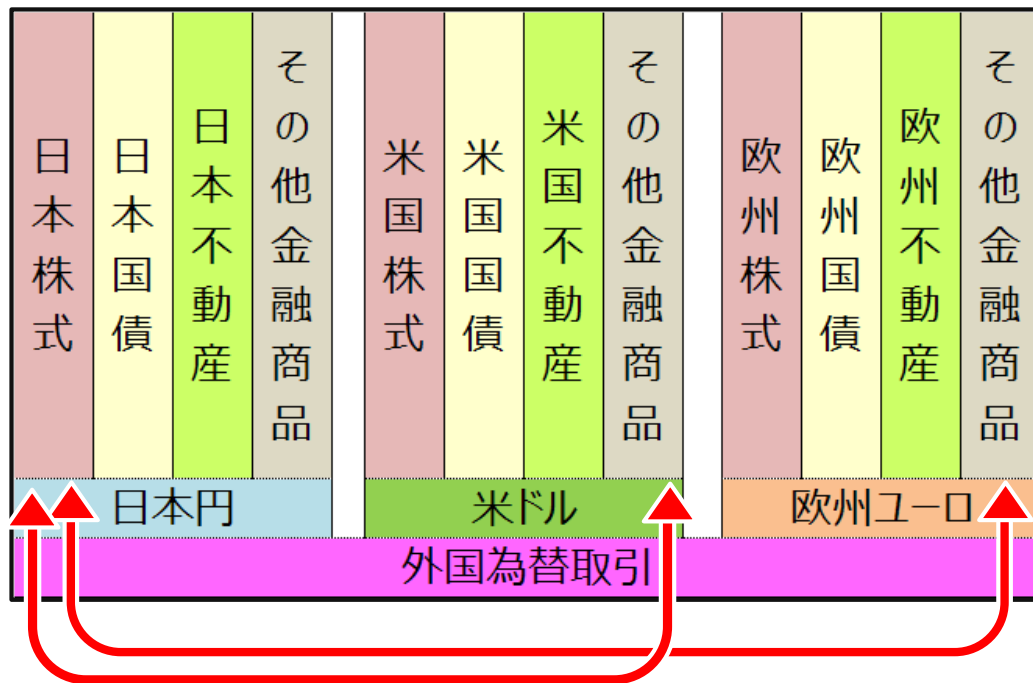
短期筋がつくる需給

ポジションを作ってから、
数時間から数日間かけて
少しずつ決済し、
元の水準に戻ってくる傾向



保有

徐々に決済

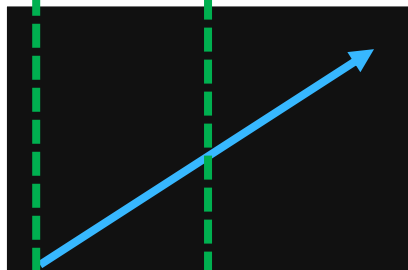
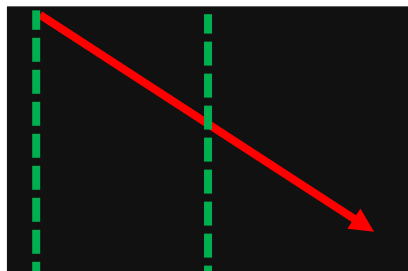




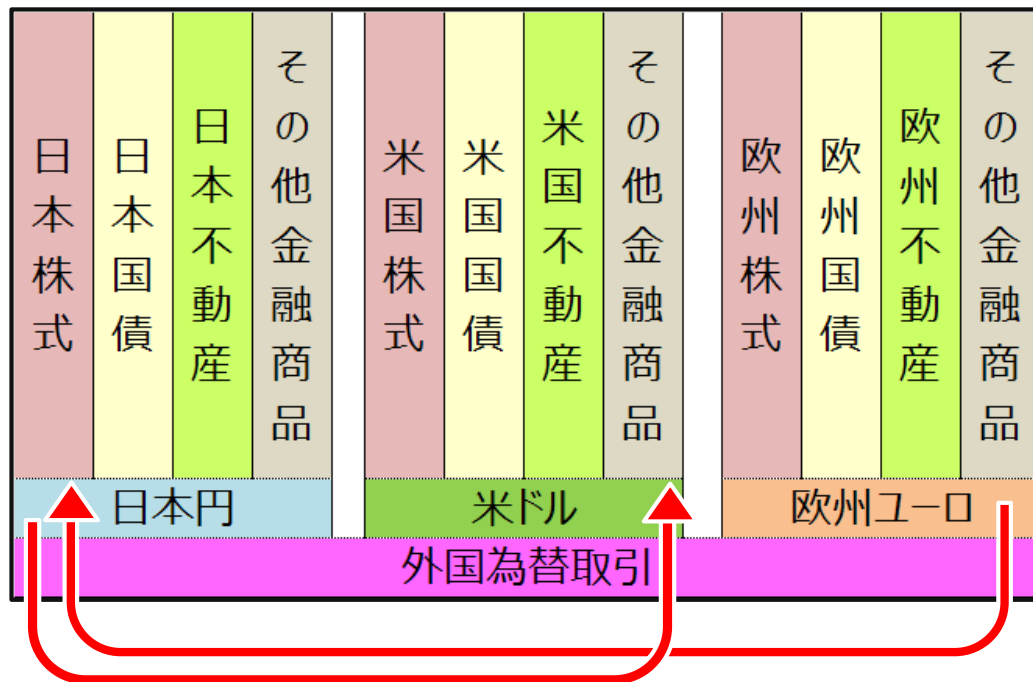
お金の流れを押さえよう

長期筋がつくる需給

短期筋と変わらないように見えるが、ポジションを作ったら決済せず保有し続けるので相場に長期的なトレンドが生まれる



保有 追加保有





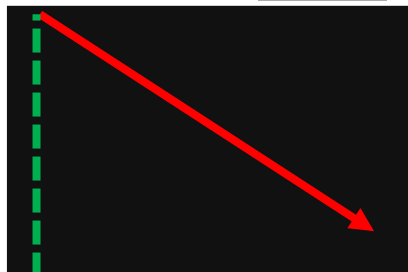
お金の流れを押さえよう

実需筋がつくる需給

備えるべき前提知識

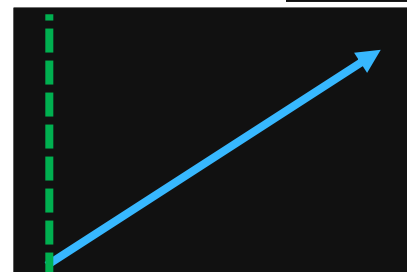


輸出をし、海外通貨を得たので日本円にして回収
⇒日本円のニーズが高くなり中期的に円高へ

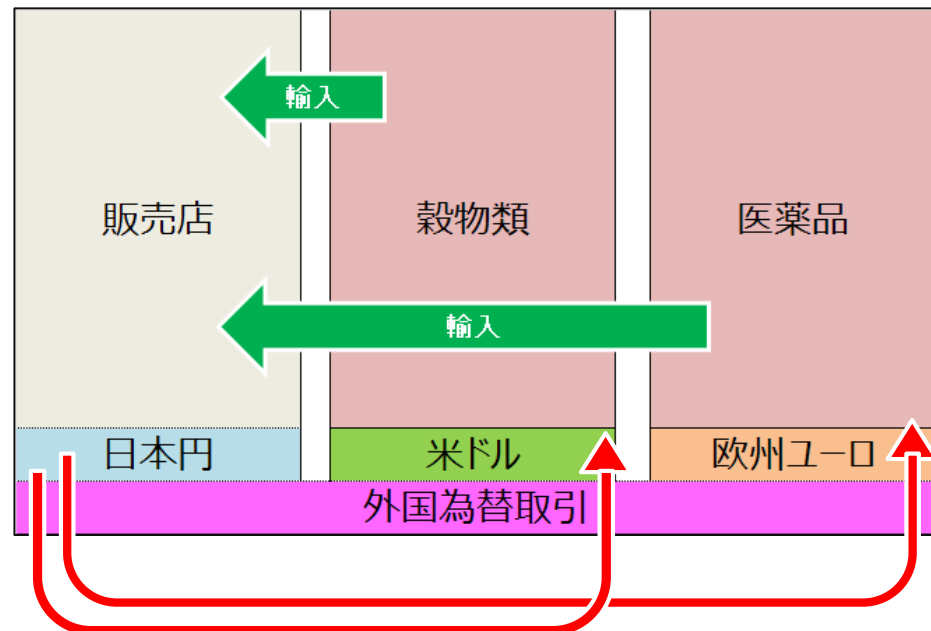
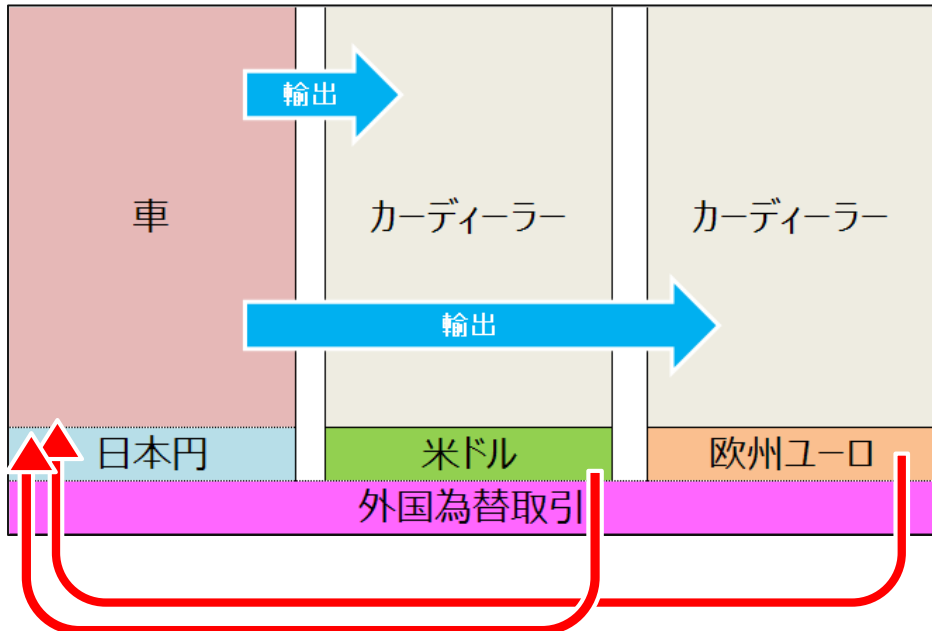


外貨を売って日本円へ

輸入をし、日本円を交換して海外通貨で支払う
⇒海外通貨のニーズが高くなり中期的に円安へ



日本円を売って外貨へ





お金の流れを押さえよう

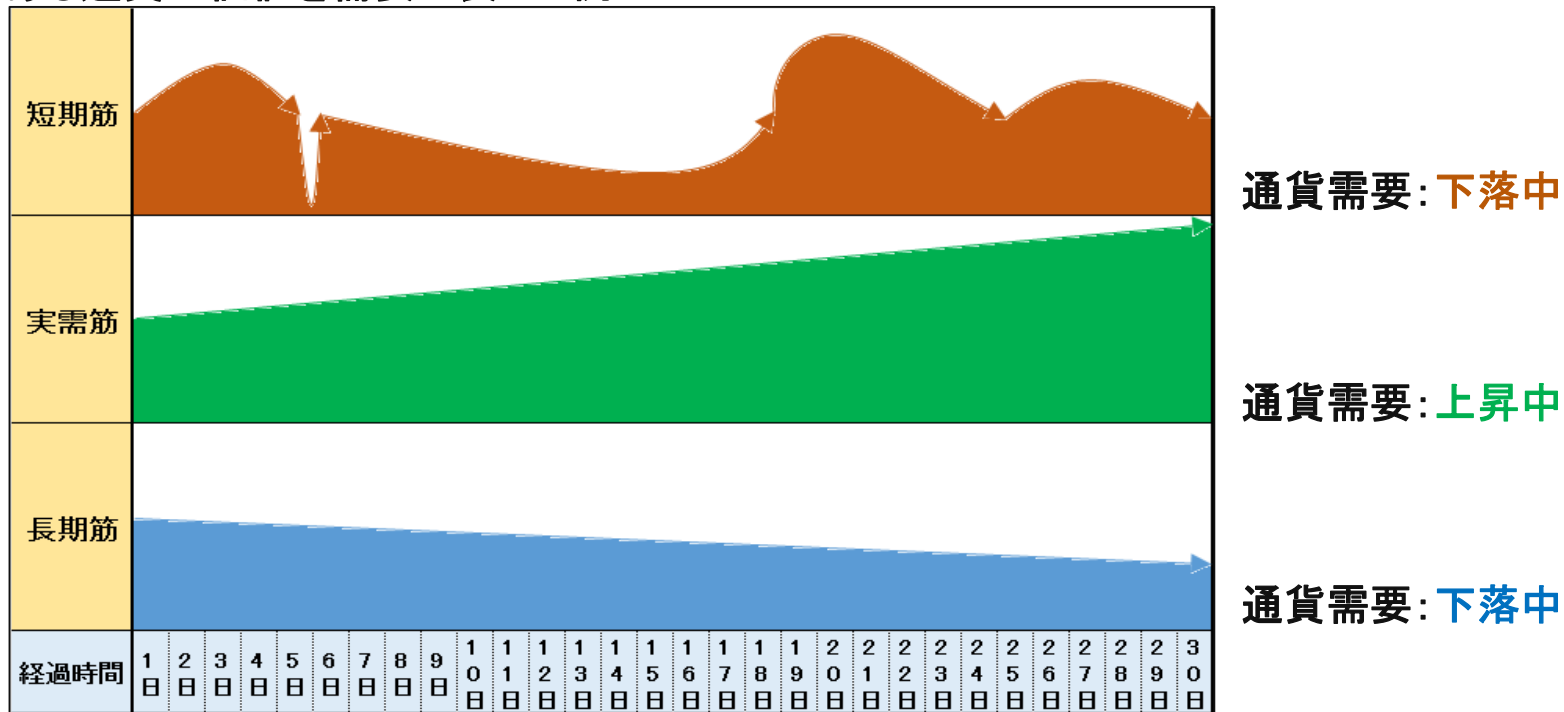
備えるべき前提知識

それぞれの筋がつくる通貨の需給変動カーブ

外為どっとコム

実需筋(輸出・輸入)や長期筋(投資)は、外国為替取引の結果が短期筋(投機)と違うことを認識しましょう。

ある通貨の価値を需要で表した例



短期筋(投機) : お金を提供し、値動き変動が発生したら決済してお金を回収する

⇒ お金の流れは(短期的で) 双方向

実需筋(輸出入) : お金を提供し、モノを取得する(輸入) / モノを提供し、お金を回収する(輸出)

⇒ お金の流れは(中期的に) 一方向

長期筋(投資) : お金を提供し、権利等を取得して長期保有で利回り金を、売却でお金を回収する

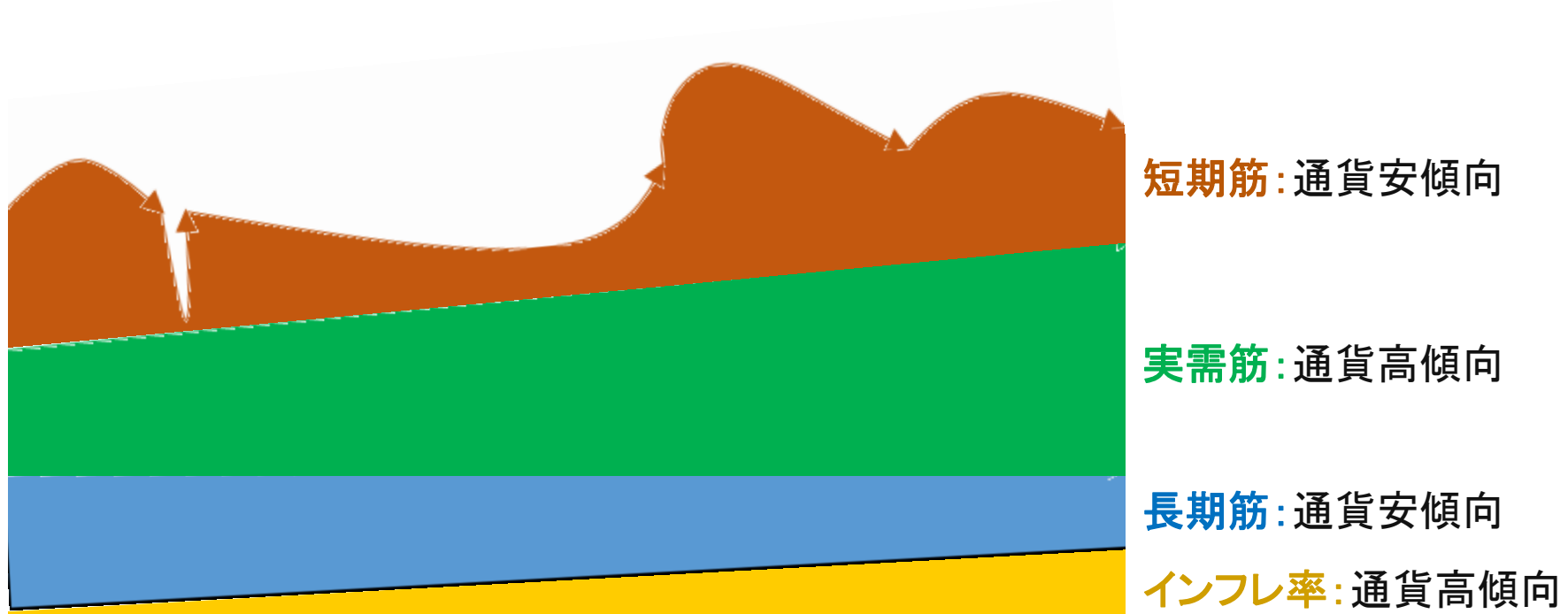
⇒ お金の流れは(長期に渡って) 一方向

型で把握:見通しは期間によって異なる

すべての傾きを総合した需給を想像する

G 外為どっとコム

インフレ率・長期筋・実需筋・短期筋の作り出す相場をすべて組み合わせて考えると現状が見えてきます



たとえば上図に沿って眺めると「現在は短期的に通貨安」であるものの、
 実需による「中期的な通貨高傾向」が強く、長期筋による通貨安の影響を相対的に押さえ込んでいると考えられます。
 また実需の動向が一段落した場合には「長期的な上昇要因に乏しく」、横ばい～下向きの動きが予想されますが、イン
 フレ率は通貨高傾向を示していますので、「超長期的見ると上昇していくのではないかと考えることができます。



国を越えたお金の流れを把握するには？ 外為どっとコム

日本の立場から見た国内外へのお金の流出入の結果を表すものに「国際収支」というものがあります。

国際収支

金融収支

直接投資

(企業出資・買収、不動産取得など)

株式・投資ファンド持分

証券投資

中長期債

短期債

金融派生商品

(先物・先渡取引、ワラント、通貨スワップなど)

その他投資

(上記に該当しない金融取引。貸付・借入など)

外貨準備

(通貨当局の管理下にある利用可能な対外資産)

経常収支

貿易収支

(モノの輸出入)

輸入

輸出

サービス収支

(輸送費・旅行者の受払費・その他特許等サービスの受払費)

第一次所得収支

(海外に対して投資した結果得られた配当や利息など)

第二次所得収支

(ODA等の海外への仕送りと海外からの仕送りとの差額)

資本移転等収支

(知財権や固定資産の取得・譲渡など)

誤差脱漏

(帳尻合わせ)

←合計は同じ→

つまり
別の見方
で表示している！

金融収支＝経常収支＋資本移転等収支＋誤差脱漏の関係となっている。

財務省 国際収支状況：

https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/index.htm

公表時期：

国際収支状況<速報>...翌々月第6営業日

国際収支状況<第2次速報>...翌々四半期の最初の月第6営業日

国際収支状況<年次改訂>...翌年および翌々年4月第6営業日

地域別国際収支状況...翌々四半期の2か月目第6営業日

地域別国際収支状況<年次改訂>...翌年および翌々年5月第6営業日

(C) Gaitame.com Co.,Ltd. All rights reserved.

テクニカル分析の前提知識

テクニカル分析とは、
過去の値動きを参考に将来の値動きを予測するための手法です。





プロセスで把握: 近視眼的にならないために

テクニカル分析の手順



備えるべき前提知識

 外為どっとコム

川畑 琢也のざっくりテクニカル分析！より

難しく考えず、3つのStepでチャートを読み解こう！

Step 1 : 分かりやすい形を探す

Step 2 : より長い時間軸も確認

Step 3 : 目安となるポイントを探す



テクニカル分析の手順

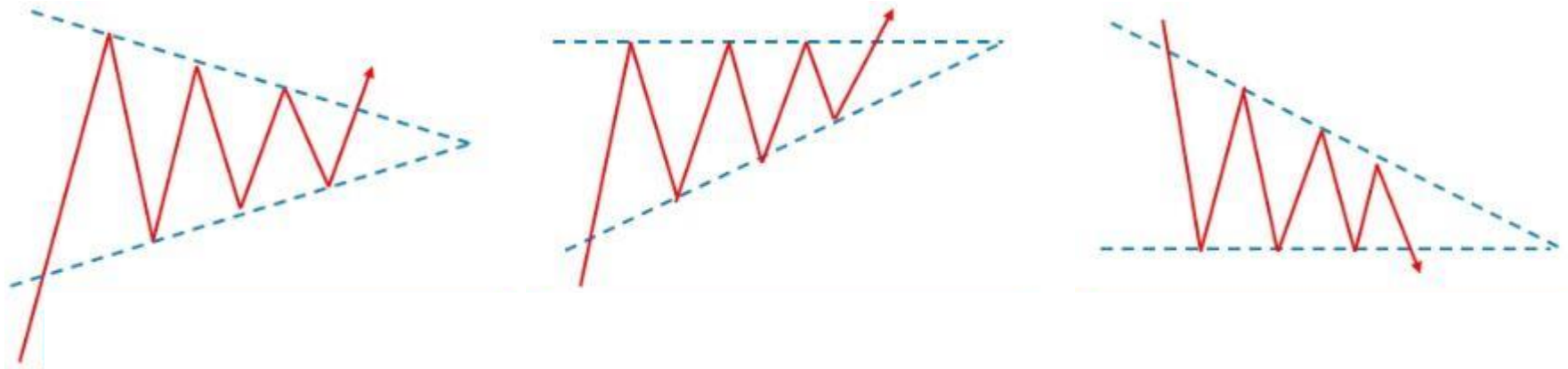


Step 1. 分かりやすい形を探す とは？

- ・フォーメーション・・・三角もち合い、Wトップ、三尊など
- ・トレンド・・・上向き？下向き？横ばい？

⇒ 売る・買う・様子見のどれを選ぶか見えてくる

代表的な三角もち合い



プロセスで把握: 近視眼的にならないために

テクニカル分析の手順



Step 2. より長い時間軸も確認 とは？

- ・トレンドを見つけやすくする
- ・チャート上にあるポイントの確認

⇒トレンドの有無や、売買のメドが掴みやすくなる

※マネ育2回目の「トレンドをつかむ」の復習



プロセスで把握: 近視眼的にならないために

テクニカル分析の手順



Step 3. 目安となるポイントを探すとは？

- ・チャート上から、実際に取引できそうな箇所を見つける
⇒これから行うトレードのシナリオを作れる

ローソク足と移動平均線の位置関係

・上昇トレンド

線の傾きが上向き、かつ「ローソク足 > 移動平均線」



・下落トレンド

線の傾きが下向き、かつ「ローソク足 < 移動平均線」





Step 1. 分かりやすい形を探す



日足





日足



週足



Step3. 目安となるポイントを探す



メインシナリオ: 上がりそう!

- 売買ポイント
⇒ 持ち合い上限突破した時 (①)
- 利益確定のメド
⇒ 1/27 高値 (144.785円: ②)

サブシナリオ: もし下落するとしたら...

- 売買ポイント
⇒ 持ち合い下限割れた時 (③)
- 利益確定のメド
⇒ 1/16 安値 (136.460円: ④)



複数のチャートを用いることで見えてくること 1

外為パソコンのように、複数のチャートを「同じ大きさ・同じ時間足・主要な通貨ペア」で見ると何が分かるのでしょうか？

Q. 右のチャートから読み取れることを挙げてみましょう。

2016年2月23日 10時頃
15分足にて6通貨ペアを表示



ヒント.

まずは世界で1番多く取引をされている米ドル、2番目のユーロ、3番目の円の動向が、それぞれどうなっているかを確認してみましょう。



複数のチャートを用いることで見えてくること2

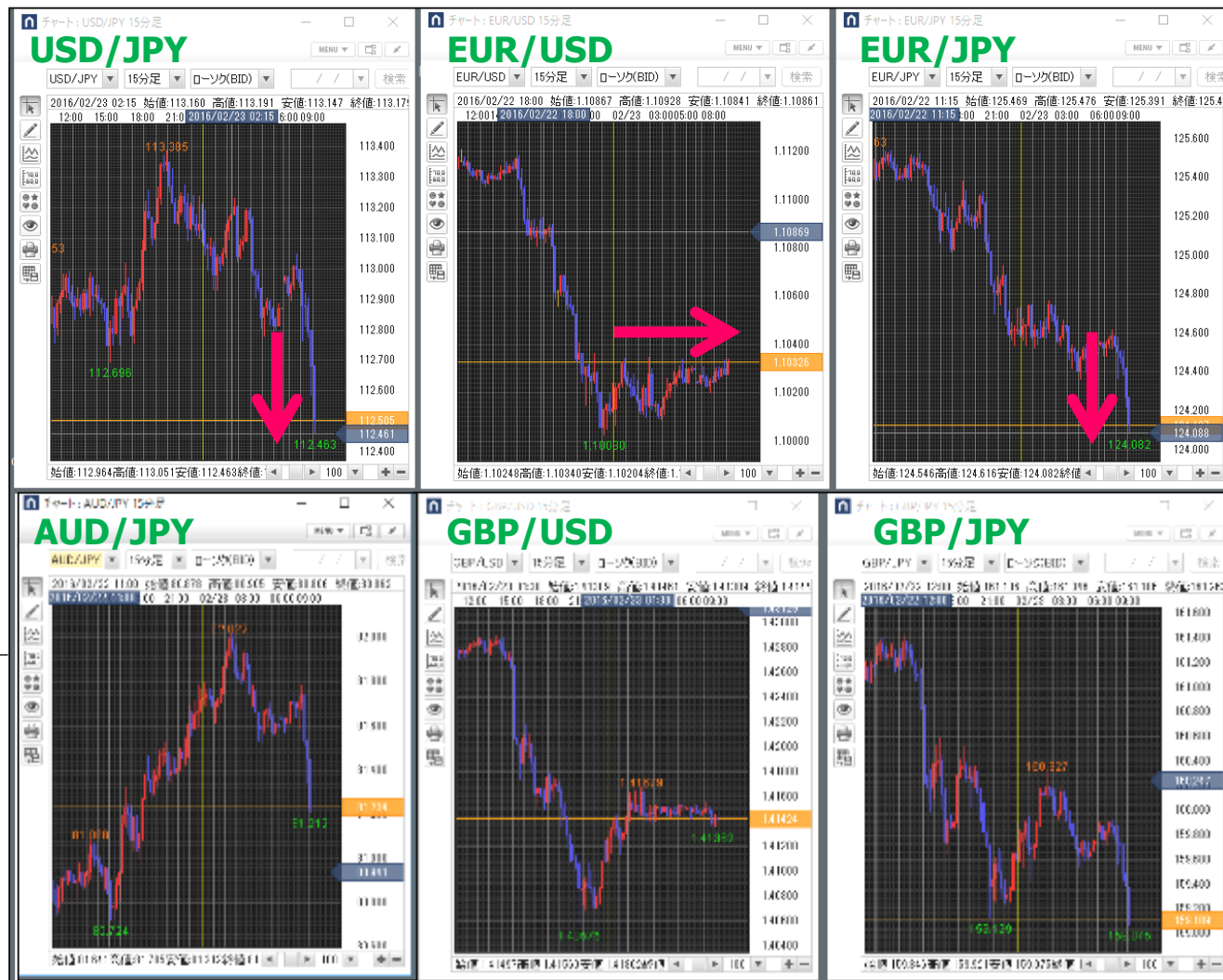
解答例.

- ① **円買い方向への取引が、市場参加者のトレンド**になっている
- ② ユーロと米ドルの強弱関係は均衡
- ③ 上記①②から、主要3通貨の強弱は円 > ユーロ ≈ 米ドル



円が市場の牽引(リード)通貨

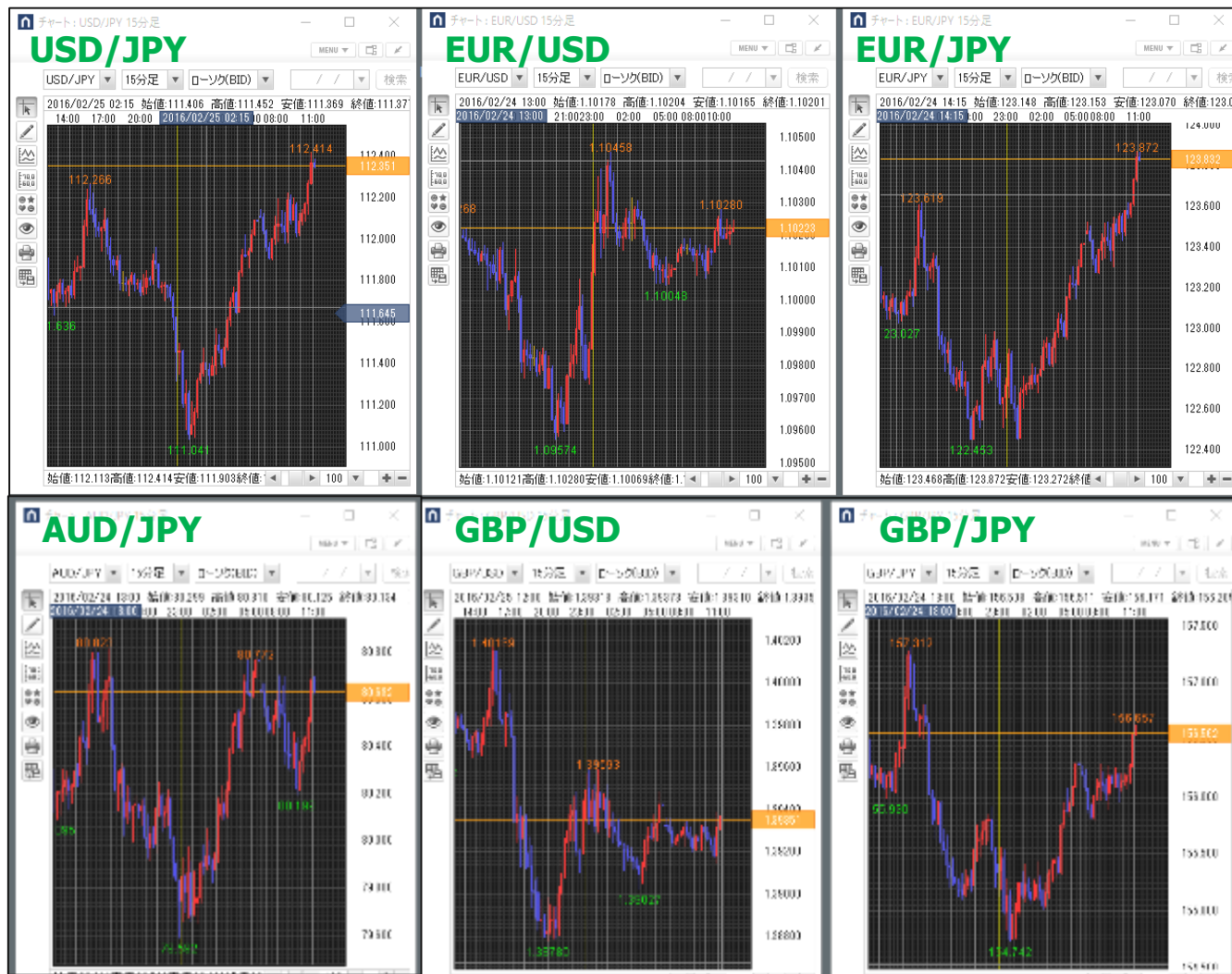
これらを踏まえて
 市場が今どの国の情報に敏感か
 いま取引をすべきか
 どの通貨ペアにすべきか
 …
 などを考える！





Q. 下のチャートから読み取れることを挙げてみましょう。

**2016年2月25日 お昼12時頃
15分足にて6通貨ペアを表示**





実践

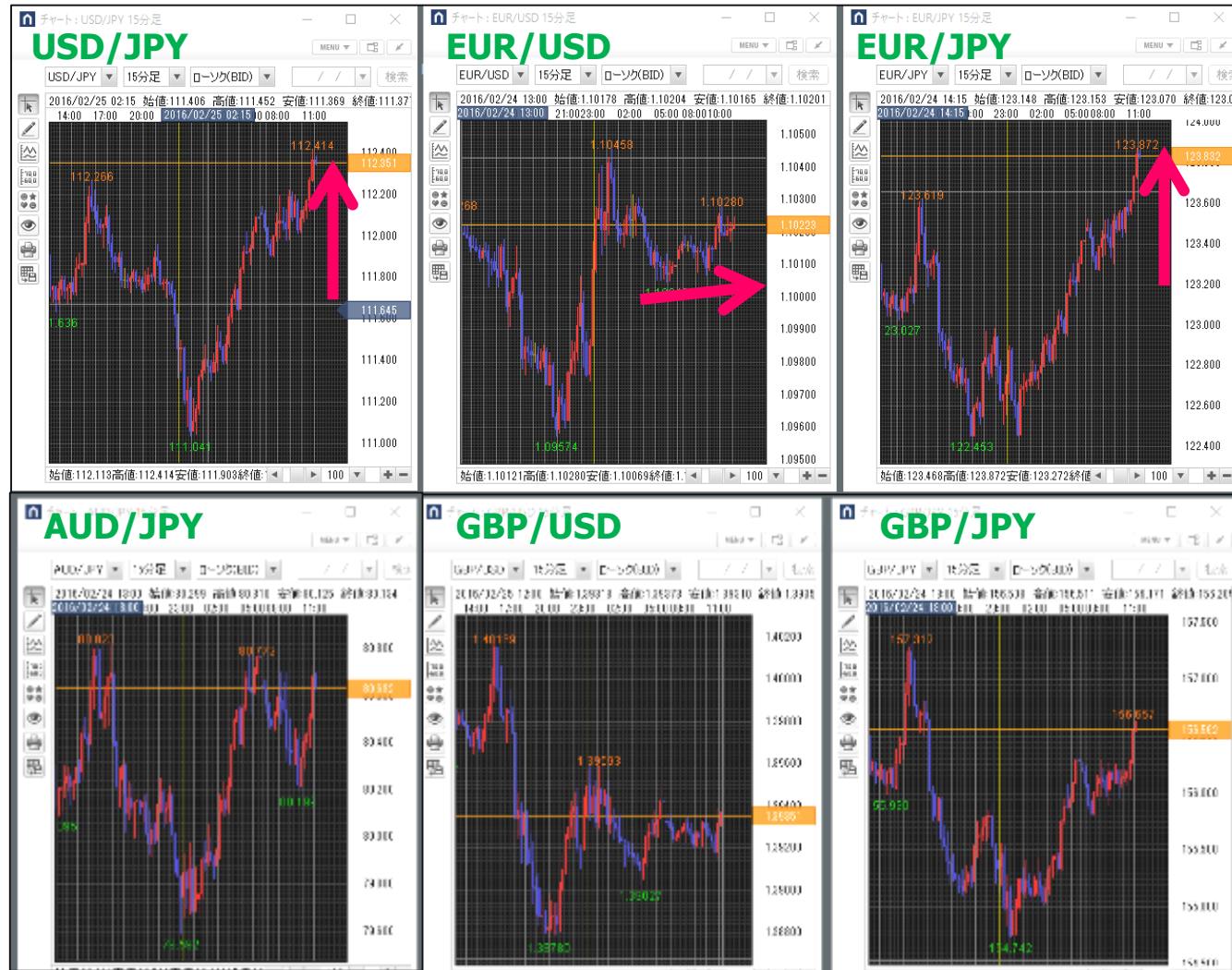
練習してみよう！ ～その1：解答例～

解答例.

- ① **円売り方向への取引が、市場参加者のトレンド**になっている
- ② ユーロと米ドルの強弱関係は **均衡～ややユーロ優勢**
- ③ 上記①②から、主要3通貨の強弱は **ユーロ \geq 米ドル $>$ 円**



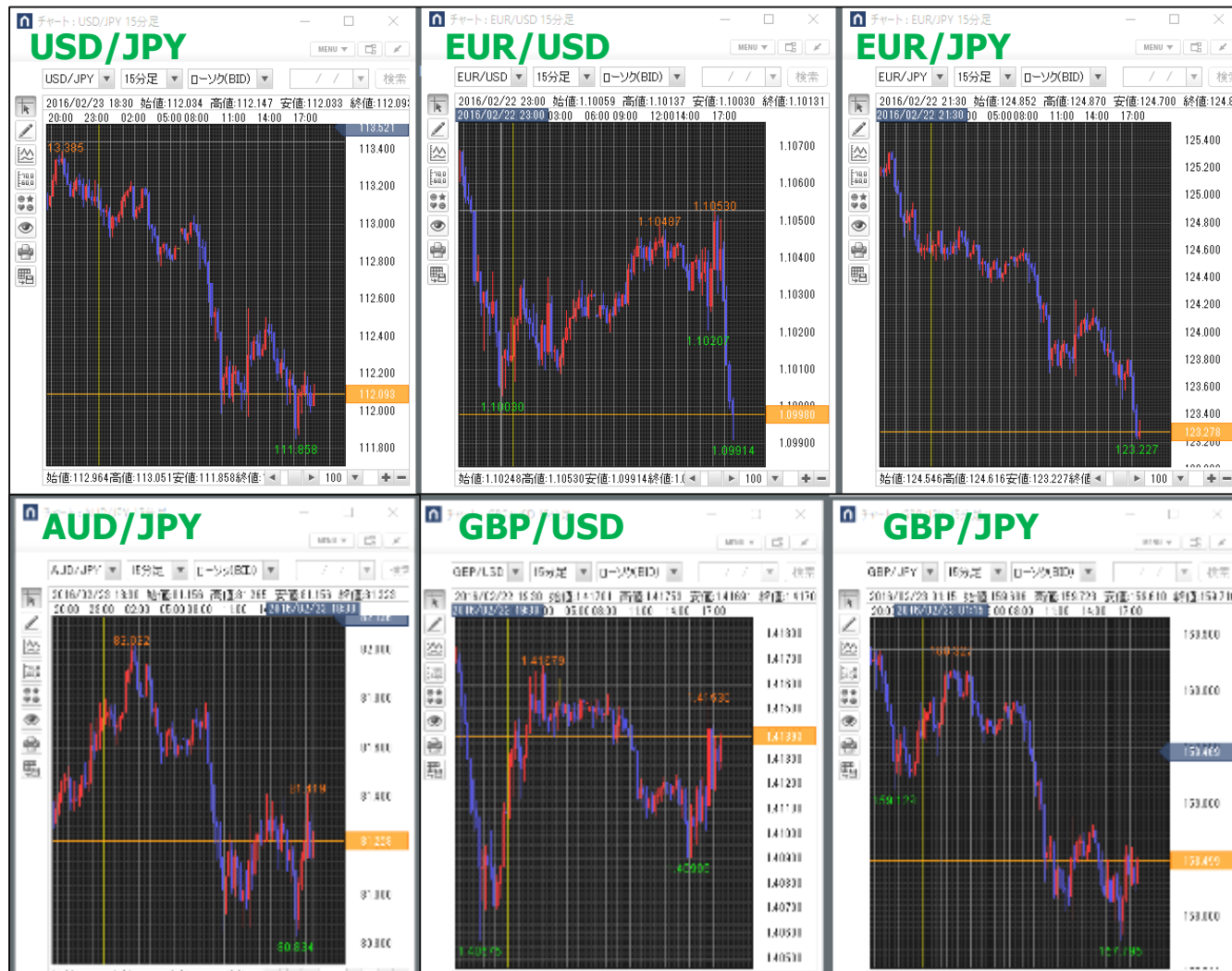
円が市場の牽引(リード)通貨





Q. 下のチャートから読み取れることを挙げてみましょう。

2016年2月23日 18時30分頃
15分足にて6通貨ペアを表示





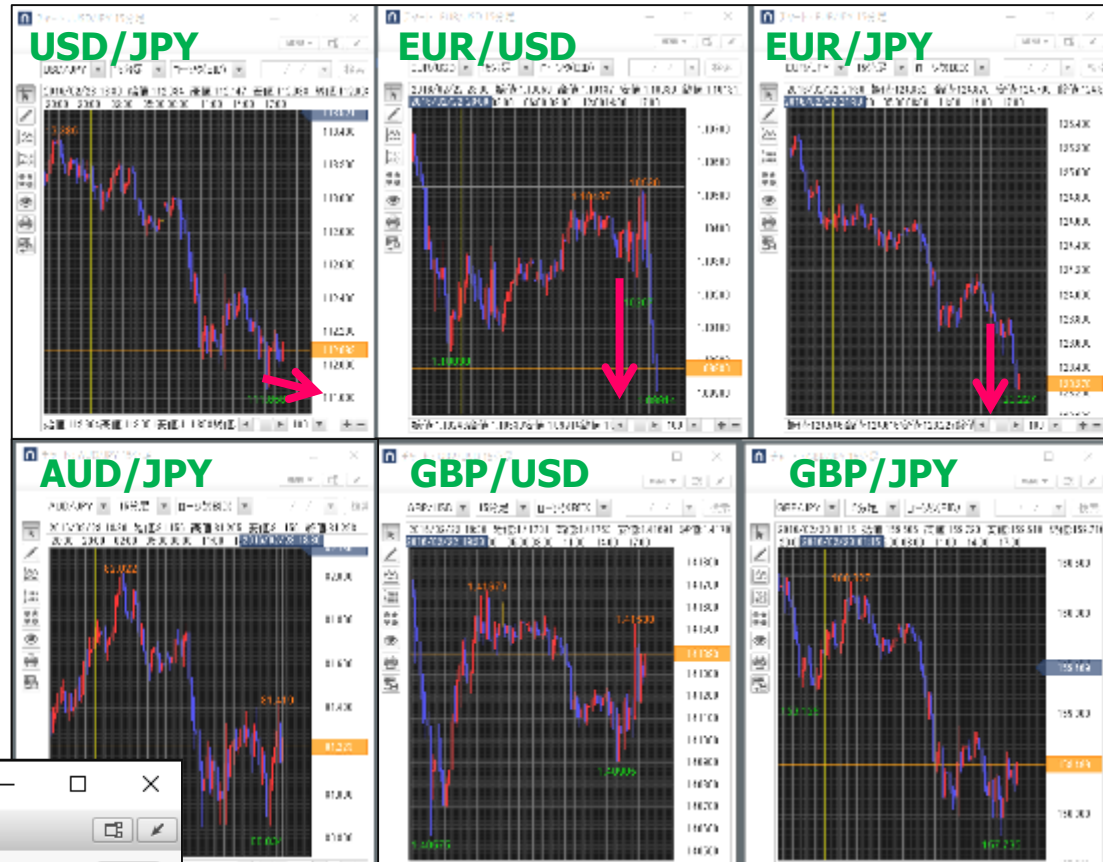
練習してみよう！ ～その2：解答例～

解答例.

- ① ユーロ売り方向への取引が市場参加者のトレンドになっている
- ② 円と米ドルの強弱関係は均衡からやや円優勢
- ③ 上記①②から、主要3通貨の強弱は 円≧米ドル>ユーロ



ユーロが市場の牽引(リード)通貨



ニュース

GI24 1~100件 自動更新 最終更新: 02/23 18:39 更新

日付	配信元	件名
02/23 18:37	GI24	英10年債利回り、上昇 1.408%前後で推移
02/23 18:26	GI24	ユーロ、軟調 弱い独指標受けユーロドルは1.10ドル割れ
02/23 18:12	GI24	ユーロドル、1.10119ドルの安値付ける ユーロ豪ドルの下落に押され
02/23 18:12	GI24	日経平均先物、下げ渋り 大証終値比60円安
02/23 18:10	GI24	豪ドル、買い強まる ユーロ豪ドルは1.51806豪ドルの安値
02/23 18:00	GI24	【指標】2月独Ifo景況感指数、予想下回る105.7
02/23 17:45	GI24	【指標発表予定】18:00 2月独Ifo企業景況感指数

←ニュースで確認してみると、ユーロを軸とした売りの情報が複数重なっていました。(※外貨ネクストネオのニュースから確認)

注文方法の応用

マネ育スクールで身に付けた注文方法のスキルを用いて、
より実践的な取引手法を活用していきましょう。





新規注文時の指値予約には気を付けよう



◆①の時点で、②の水準へ買いの新規注文を指値で予約を出すとします。

◆しかしその際に、そもそも①の時点よりもレートが②まで下がっているということは、もうトレンドの方向が変わっている可能性があるということも想定しておきましょう。



新規注文時の指値予約には気を付けよう



◆①の時点で、②の水準へ買いの新規注文を指値で予約を出すとします。

◆しかしその際に、そもそも①の時点よりもレートが②まで下がっているということは、もうトレンドの方向が変わっている可能性があるということも想定しておきましょう。

⇒実際に直近の最高値近辺でトレンドが変わったあとに下落トレンドが発生した。



新規注文の予約を逆指値(ストップ)で



◆トレンドに乗っていくのであれば、同じ方向へ予約するように心がけましょう。

◆この例で継続したトレンド方向へ乗っていけるポジションを持つのであれば、②を直近の高値を超える水準に設定することが、確度の高いポジションを保有でき、万一トレンドにならなかった場合のリスク管理にもつながります。

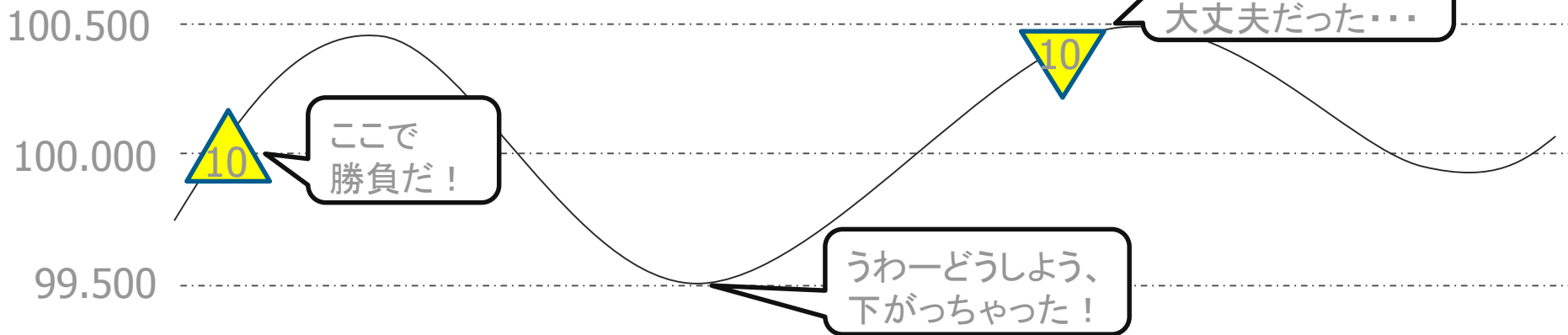
◆新規注文でこれを予約する場合には、指値ではなく逆指値(ストップ)を用います。



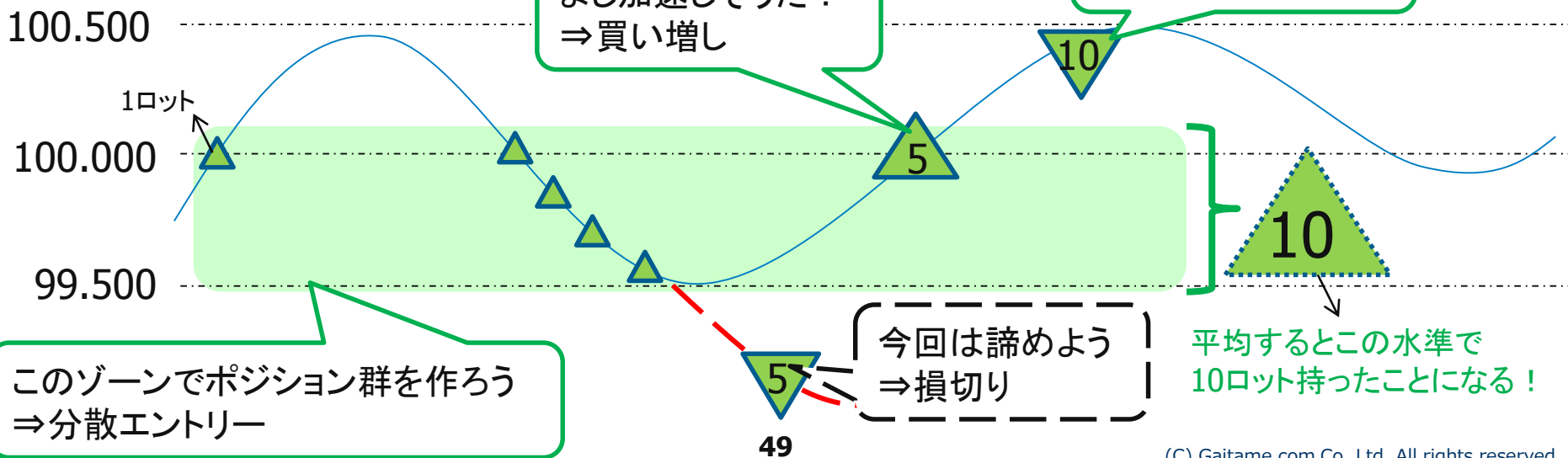
エントリー（新規注文）を分散化させるリスク管理



よくあるパターン



エントリーを分散させるパターン



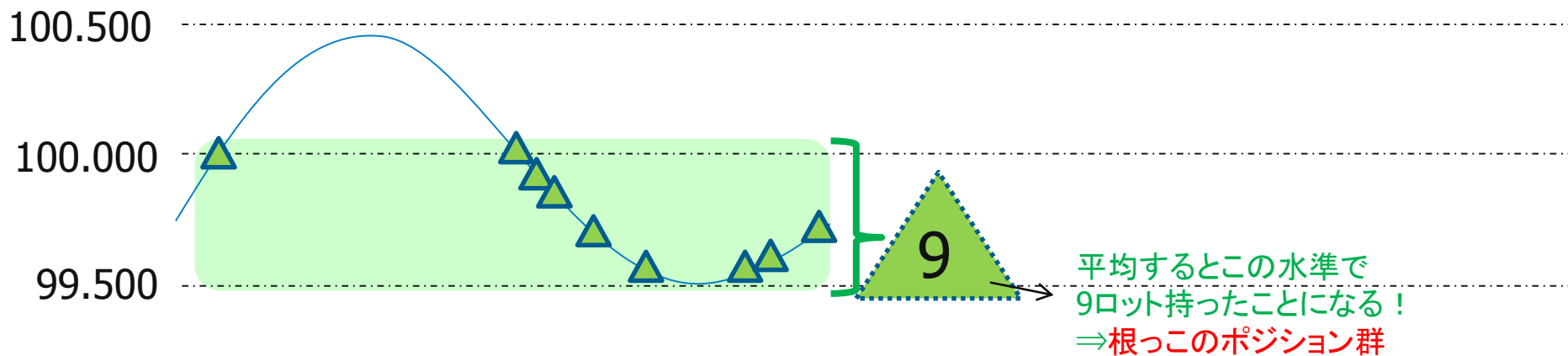


プロセスで把握:ピラミッディング

分散エントリーの応用 ～根っこのポジション群を作る～



エントリーを分散させて、なるべく平均コスト(平均レート)の有利な根っこのポジション群を作る

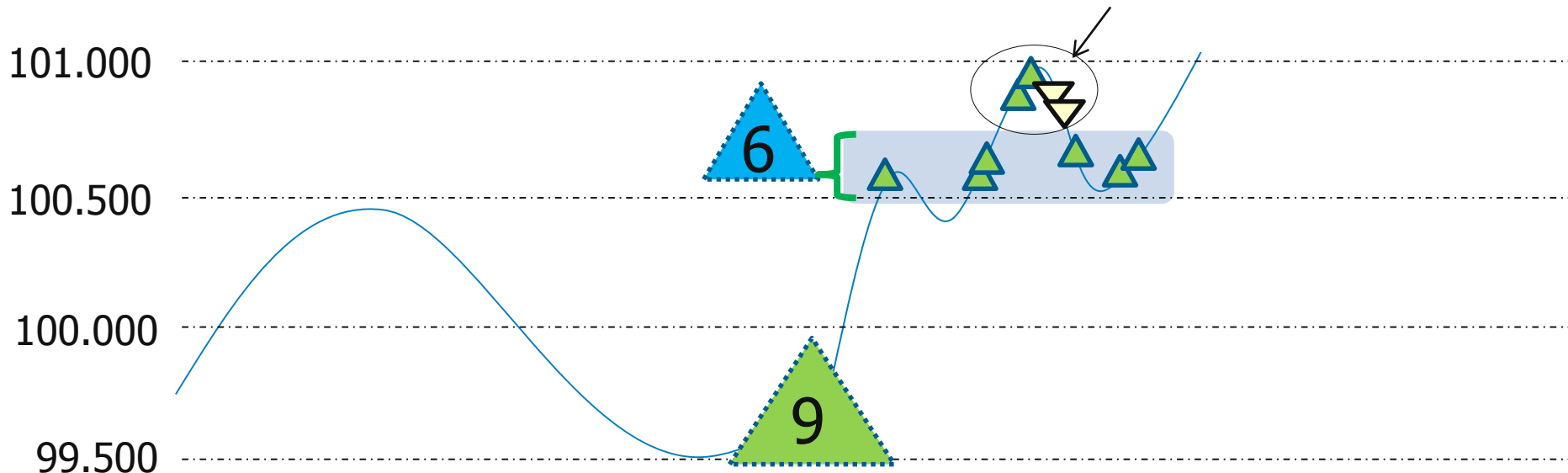




分散エントリーの応用 ~枝のポジション群を作る~ 外為どっとコム

根っこのポジションがあるため、相場が一段階動いたら、積極的に枝のポジション群を作る

テクニック:
この群の平均コストを悪くしているポジションはすぐに決済する





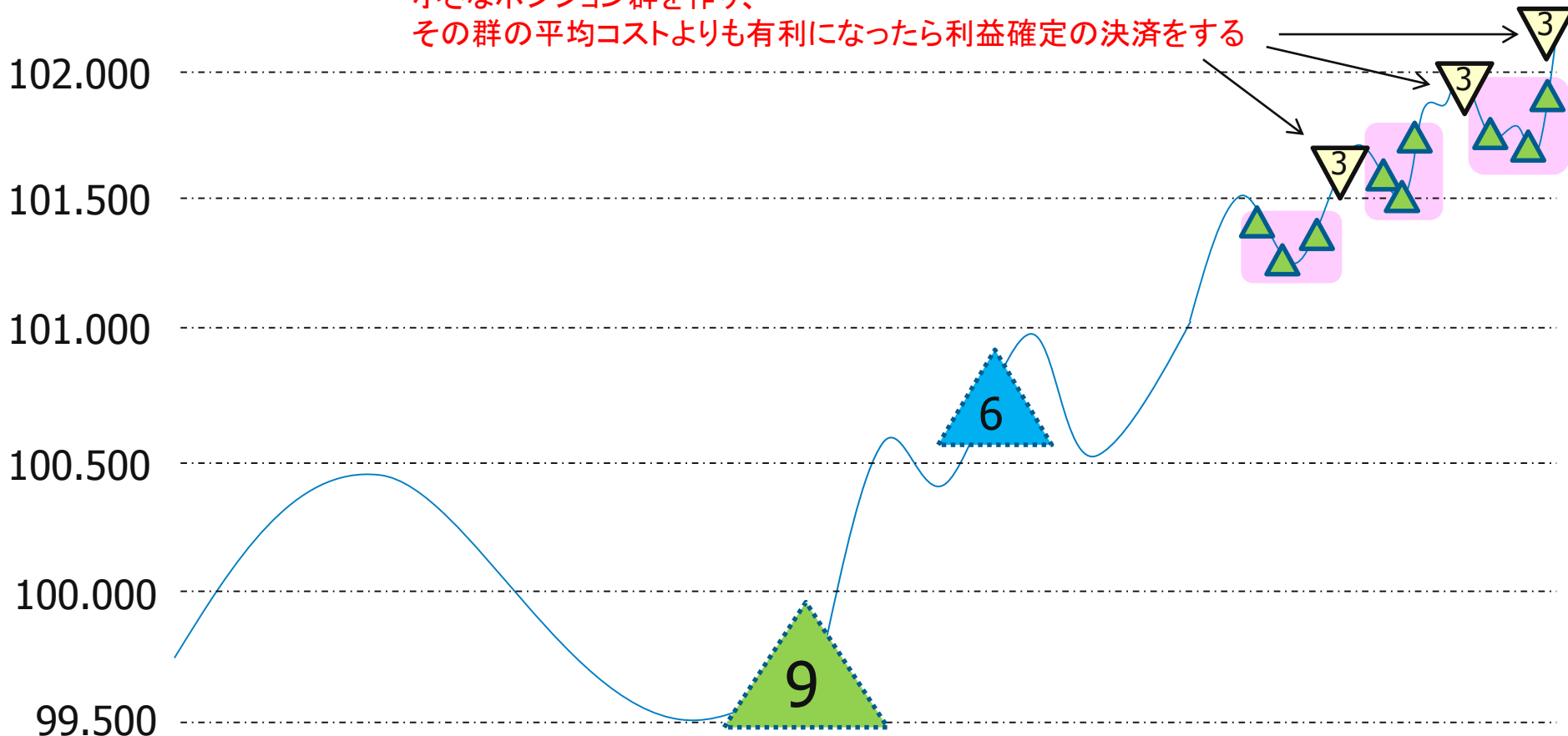
プロセスで把握:ピラミッディング

分散エントリーの応用

～葉で細かく利益を積み重ねる～  外為どっとコム

根っこのポジション群と枝のポジション群はそのまま葉っぱのポジションで利益を積み重ねる

小さなポジション群を作り、
その群の平均コストよりも有利になったら利益確定の決済をする



プロセスで把握:ピラミッディング 分散エントリーの応用 ~補足事項~

- 葉っぱまでできたけど、枝や根っこのポジションはいつ閉じる？
 - ⇒はじめに構築した相場観に変更点があり、需給バランスの観点から見たときに、これ以上の有利な方向への値動きが望めないと判断した場合。
 - ⇒時間がかかりそうな場合。
 - ⇒前のポジション群（葉っぱまで作っていたら枝）まで相場が戻ってきた場合。

- 根っこ、枝、葉っぱの各ポジション群の割合は？
 - ⇒根っこ：枝：葉っぱ = 3：2：1でポジションを作る。
 - (※このように、だんだんポジション群が小さくなる手法をピラミッティングと呼んだりもします。)

- それぞれの群を管理するのが難しい
 - ⇒ポジション照会を使うことをお勧めします。約定レートをクリックすることでポジションを約定レート順に並び替えられるため、評価損益と合わせてみることで、各群の状況が把握しやすくなります。

ポジション番号	通貨ペア	通貨	約定価格	約定日時	約定レート	ポジション	決済価格	決済日時	評価損益
1538018400003271	GBP/USD	買	1.04100	15/11/16	-45	-5,524	0		-5,424
1538018400003289	GBP/USD	買	1.04080	15/11/16	00	8,388	0		8,188
1538018400003299	GBP/USD	買	1.04150	15/11/16	25	3,173	0		3,113

約定価格

ここをクリック！

53

ポジション番号	通貨ペア	通貨	約定価格	約定日時	約定レート	ポジション	決済価格	決済日時	評価損益
1538018400003271	GBP/USD	買	1.04100	15/11/16	-45	-5,524	0		-5,424
1538018400003289	GBP/USD	買	1.04080	15/11/16	00	8,388	0		8,188
1538018400003299	GBP/USD	買	1.04150	15/11/16	25	3,173	0		3,113

2. 取引スタイルの理解と自覚



取引スタイルによって利益の求め方は変わってきます。
自分のスタイルを理解し自覚することで、
そのスタイルに沿った取り引きをすることができるように
普段から心がけていきましょう

取引スタイルとリスク管理

取引スタイルを意識的に切り替えることはリスク管理につながります。
ぼんやりと中長期トレードの考えで短期トレードに取り組んだり、
その反対を行ったりしないよう心がけましょう。

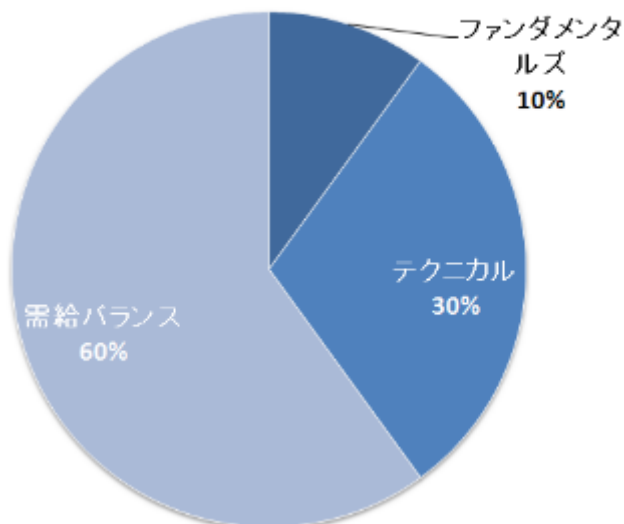




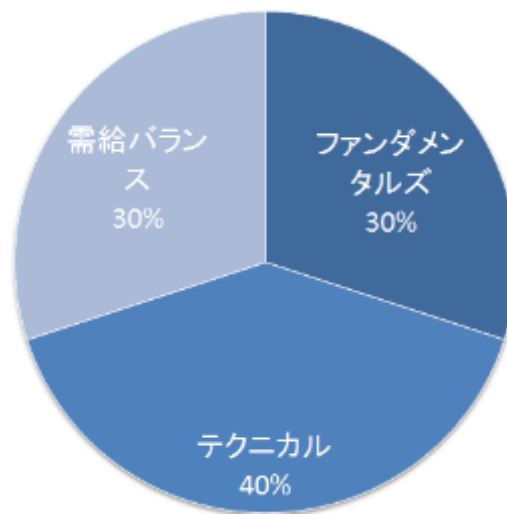
スタイルによって重視する要素は異なる

・取引スタイルによって重視している情報の割合を変えてみよう

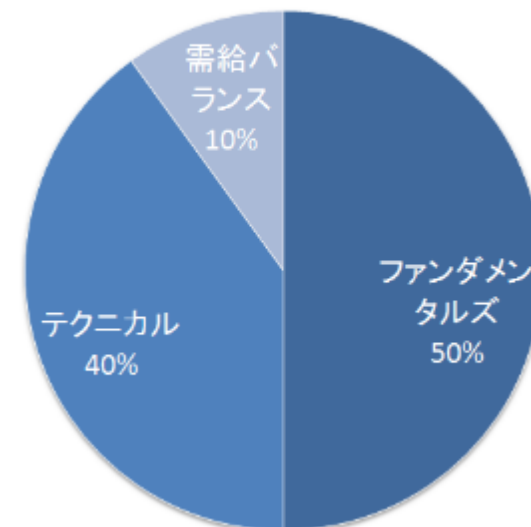
デイトレード



スイングトレード



中長期トレード



◆ファンダメンタルズ分析：

経済指標や金利など、その国の基本的な経済の状況から、**当面の原則的な方向感を頭に入れるために**利用

◆需給バランス分析：

買いたい人(需要)と売りたい人(供給)の短期的な均衡の崩れを見つけ、その**偏りに便乗するために**利用(※)
※突発的なニュースをきっかけにすることが多いため、ファンダメンタルズ分析に含められることもある

◆テクニカル分析：

過去の値動きから得られるデータを機械的に視覚化し、**取引のタイミングや水準・傾向を見極めるために**利用



取引スタイルの切り替えで変化する留意点

・以下の表を参考に、自分なりの心構えを作ってみましょう。

スタイル	期間	一般的(※)な考え方←				→自分なりの心構え			
		スワップポイント	予想の容易さ	価格変動の規模	損失や利益の規模	取引通貨の選定基準	ポジション量(最大時)	平均レバレッジ	自分を取り得るリスクコントロール方法
スキャルピング	数秒～数分	無	○	小	小				
デイトレード	数秒～1日	無	○	小～中	小～中				
スイングトレード	1日～数週間	小～中	×～△	小～大	小～大				
中長期トレード	数ヶ月～数年	中～大	×	小～極大	小～極大				

※上記の表は絶対的な定義ではございませんので、あらかじめご了承くださいませ。



取引スタイルの切り替えで変化する留意点

・以下の表を参考に、自分なりの心構えを作ってみましょう。

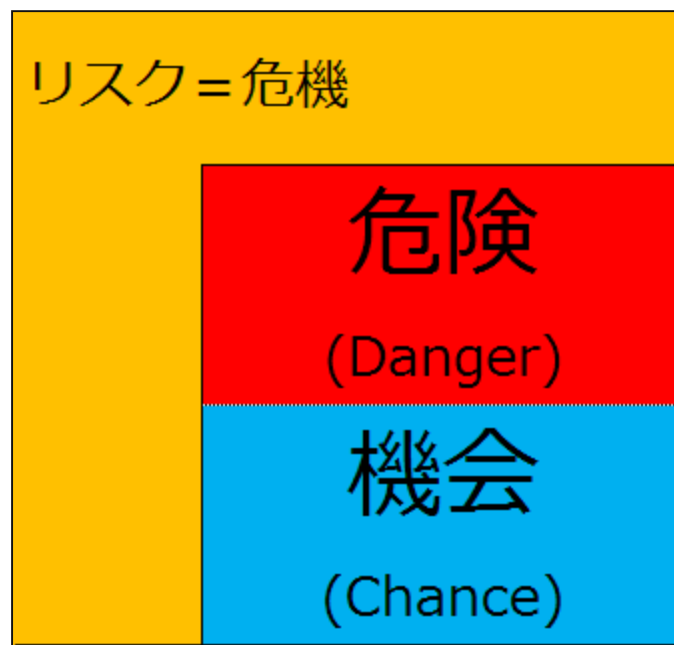
スタイル	期間	一般的(※)な考え方←				→自分なりの心構え			
		スワップポイント	予想の容易さ	価格変動の規模	損失や利益の規模	取引通貨の選定基準	ポジション量(最大時)	平均レバレッジ	自分を取り得るリスクコントロール方法
スキャルピング	数秒～数分	無	○	小	小	よく動いている通貨ペア	大	高	原則としてやらない、取引時に画面から離れない／新規・決済とも必ず成行
デイトレード	数秒～1日	無	○	小～中	小～中	よく動いている通貨ペア／トレンド中にある通貨ペア	大	中～高	分散エントリー／ルールに徹する／原則として成行決済(離席時はストップ・OCO・トレールも利用)
スイングトレード	1日～数週間	小～中	×～△	小～大	小～大	トレンド中にある通貨ペア	中	低～中	原則としてやらない／決済のストップ・OCO・トレールは必ず設定する
中長期トレード	数ヶ月～数年	中～大	×	小～極大	小～極大	大きく動かない通貨ペア、スワップが大きい通貨ペア	小	低	原則としてやらない／決済のストップ・OCO・トレールは必ず設定する

※上記の表は絶対的な定義ではございませんので、あらかじめご了承くださいませ。



「リスク管理」を考える

一般に「リスク」という単語は「危険」という意味で用いられることが多いですが、「リスク」には、下図のように2つの意味が含まれています。



これを言い換えてみると、
投資したことによって 将来 発生 するリターンが“不確実である” ことが、
資産運用における「リスク」である、ということになります。

ex. 100投資したことによって、100以上得られるかもしれないし、100以下になってしまうかもしれない。

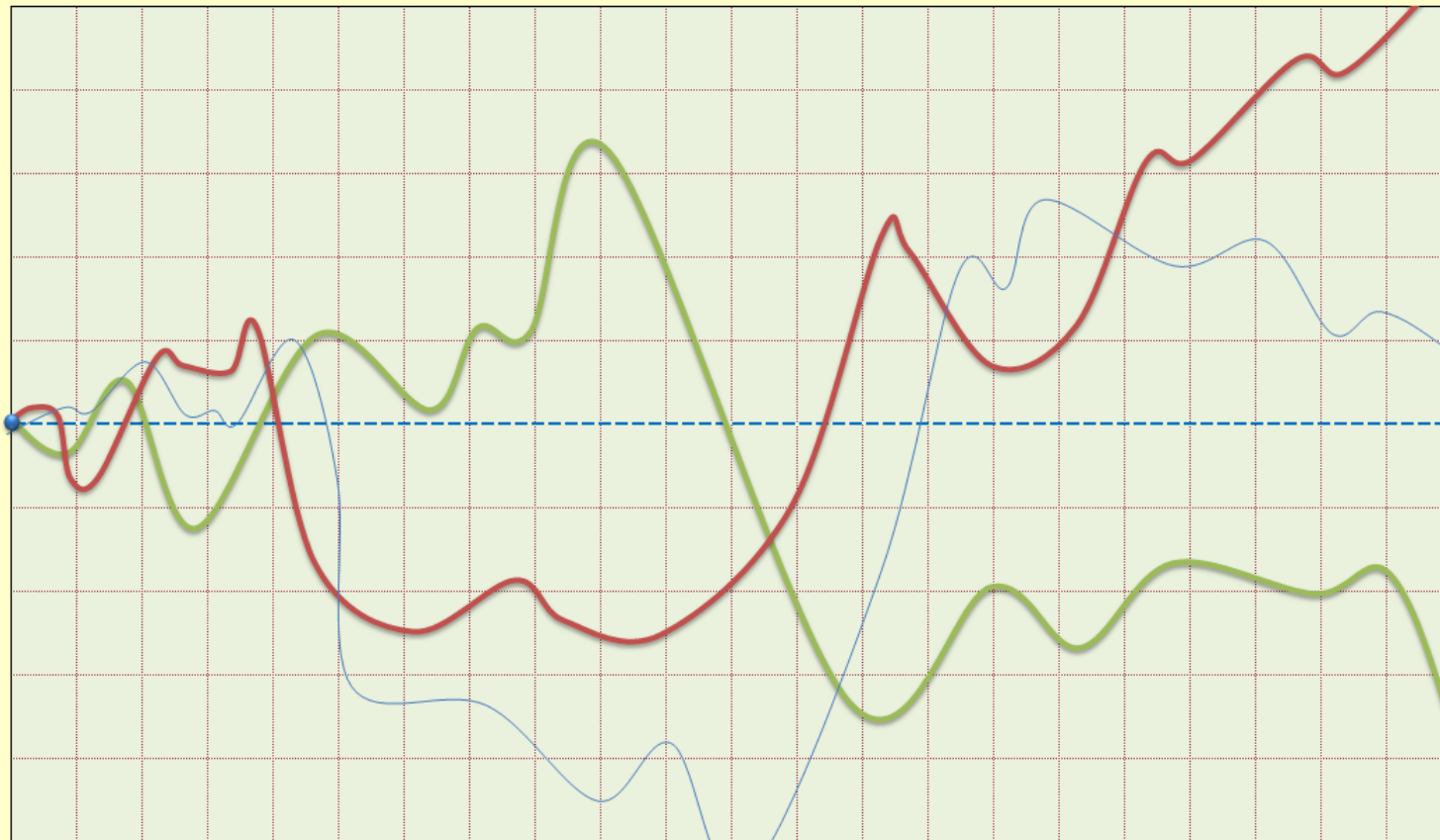
⇒ ということは、
リスク管理とは“将来発生する損益の規模”をコントロールすること ともいえる！



為替レートでみる 将来の「不確実性」



レートは時間が経つほど、元の水準から離れる余地が生まれる



1分

10分

30分

1時間

1日

5日

2週間

1ヶ月

3ヶ月

半年

1年

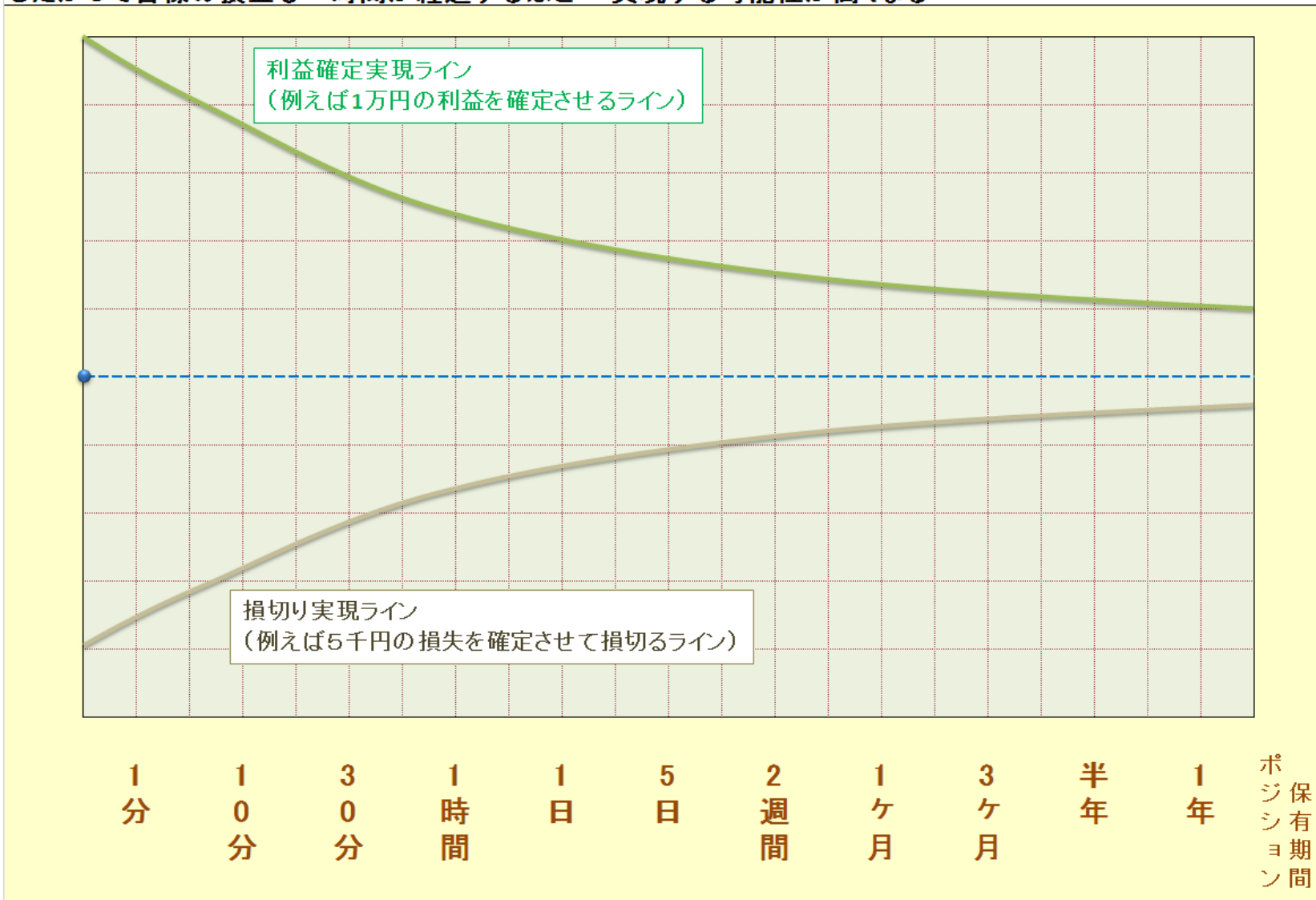
ポジション保有期間



利益確定・損切り実現ラインの推移イメージ



したがって目標の損益も ” 時間が経過するほど ” 実現する可能性が高くなる





レート変動の影響が小さいので“時間をかけて”目標損益へ達する

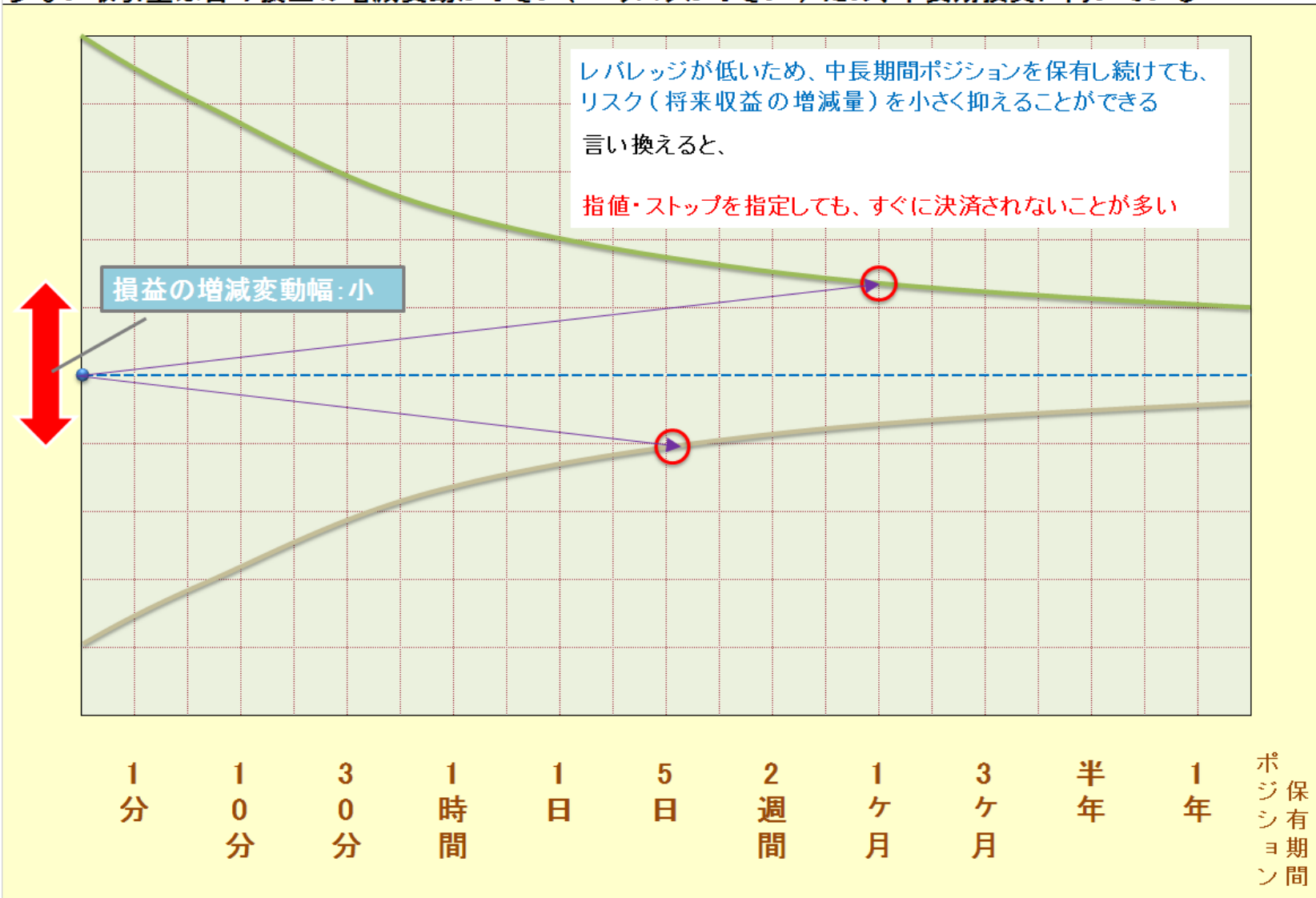
取引スタイルの理解と自覚

少ない取引量※(ロット)による運用

※ご自身の資産に照らして少ない取引量=低レバレッジ



少ない取引量は含み損益の増減変動が小さい(=リスクが小さい)ため、中長期投資に向いている





レート変動の影響を受けやすくなるので“短時間で”目標損益へ

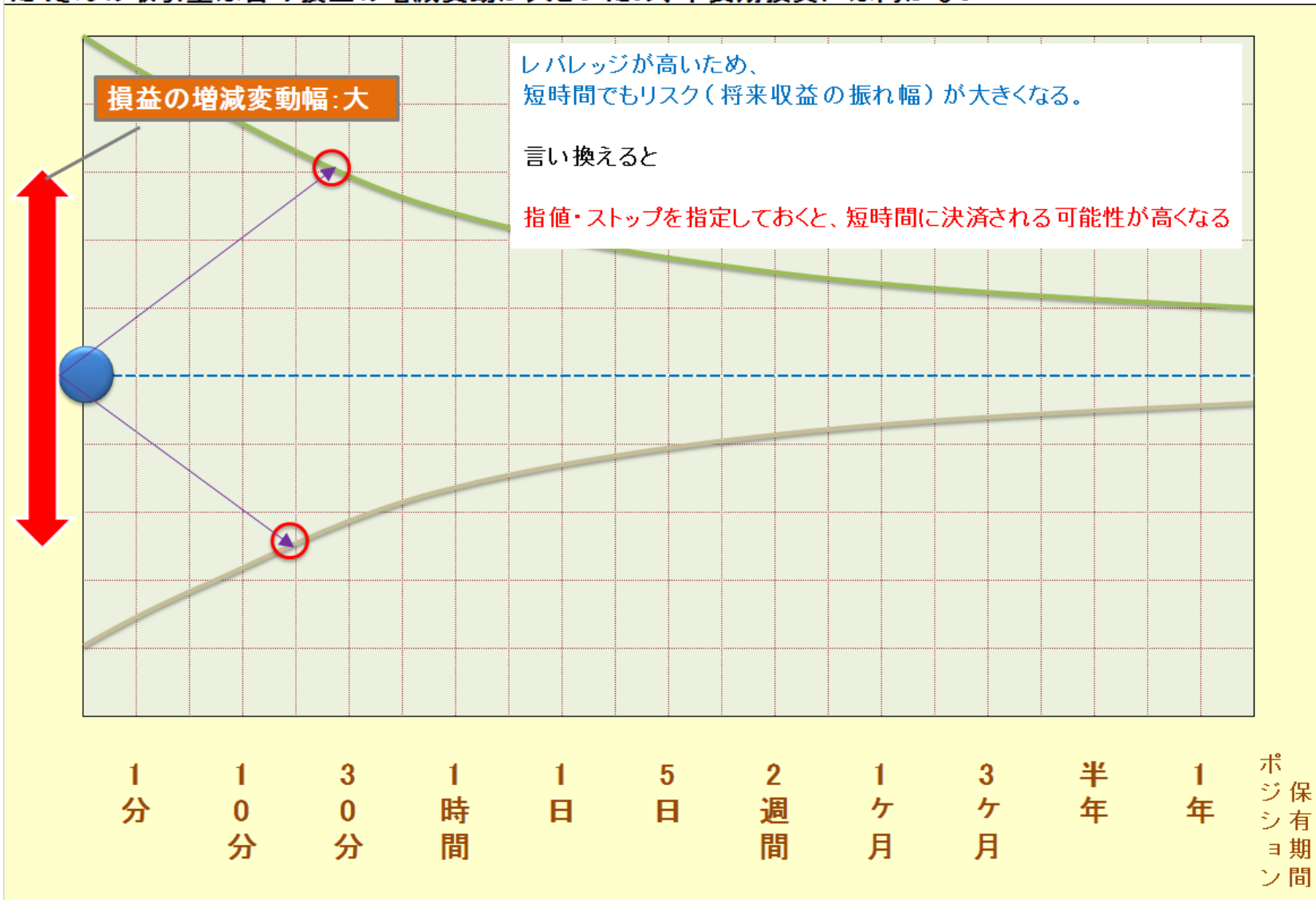
取引スタイルの理解と自覚

たくさんの取引量※(ロット)による運用

※ご自身の資産に照らして多い取引量=高レバレッジ



たくさんの取引量は含み損益の増減変動が大きいいため、中長期投資には向かない

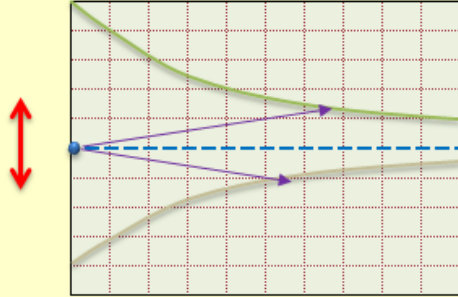


取引量によるリスク管理のまとめ



・少ない取引量でのトレード

利益確定しづらい



損失限定しづらい

1 1 3 1 1 5 1 3 半 1 ポジ
分 0 0 時 日 日 か か 年 年 保
分 分 間 月 月 月 月 シ
ヨ
ン

リスク(将来損益の増減量):小
⇒損益の増減幅を小さくすることができる

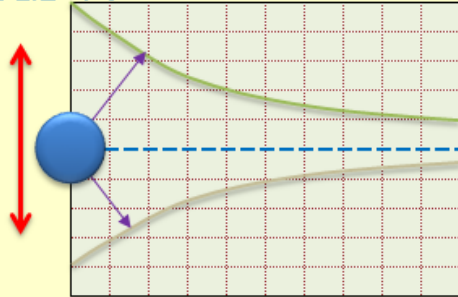
運用効率度:低
⇒目標損益に達するまでに時間を要する(可能性が高い)

想定される投資期間:中長期
⇒資産の規模を活かして、高い利回り益を狙うスタイル

※例えば資産1億円を3年間で1億3000万円にすべく(この場合の平均利回りは10%)、あらかじめ許容できる一時的な元本割れの規模と希望する利回りを設定し、それに沿った損益確定ラインを定めてポジションを保有するスタイルです。

・たくさんの取引量でのトレード

利益確定しやすい



損失限定しやすい

1 1 3 1 1 5 1 3 半 1 ポジ
分 0 0 時 日 日 か か 年 年 保
分 分 間 月 月 月 月 シ
ヨ
ン

リスク(将来損益の増減量):大
⇒損益の増減幅を大きくすることができる

運用効率度:高
⇒目標損益に達するまでに時間を要しない(可能性が高い)

想定される投資期間:短期
⇒短期的な値動きを利用して、小~中程度の利益蓄積を狙うスタイル

※例えば資産10万円を1年間(土日除く240日)で100万円にすべく、月曜から金曜まで毎日数回~数十回の新規・決済取引を繰り返し、1日3750円以上の利益×240日=90万円とするスタイルです。

上記のほか、少ない取引量で短期にトレードをする入門のパターンや、たくさんの取引量で中長期にトレードをするプロのパターンも考えられますが、どのパターンを選ぶにせよ、まずはデモ版でご検証のうえお取り組みください。



(ご参考)

決済判断の動向

新規約定レートからの増減を±10段階で表示
(1pips単位、10pips単位、100pips単位 の3パターン)。



取引数量が少ない人

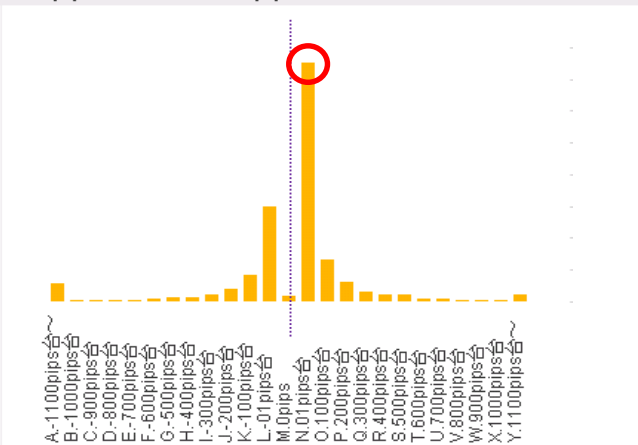
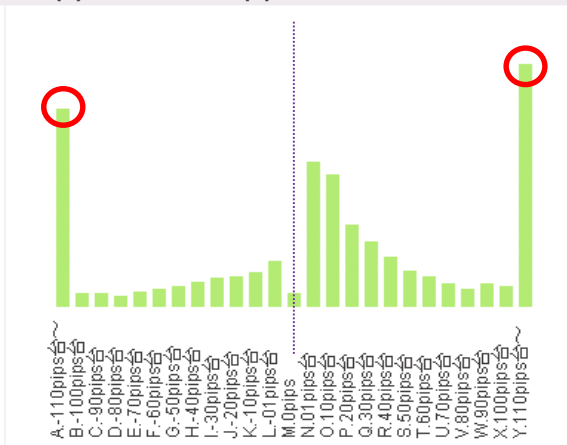
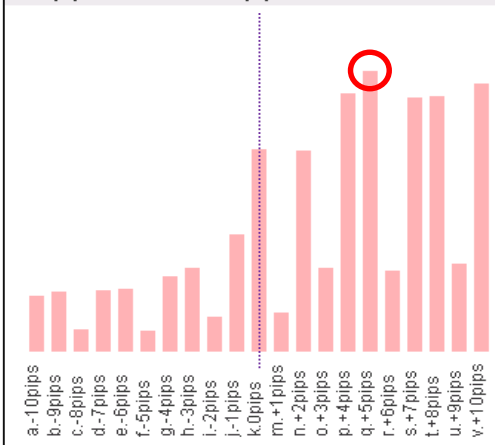
ex.100.000で買い、100.001で決済した場合には+1pipsあるいは01pips台

決済pipsの分布状況(±1pips単位)

XL - □ 決済pipsの分布状況(10pips単位)

XL - † 決済pipsの分布状況(100pips単位)

XL -



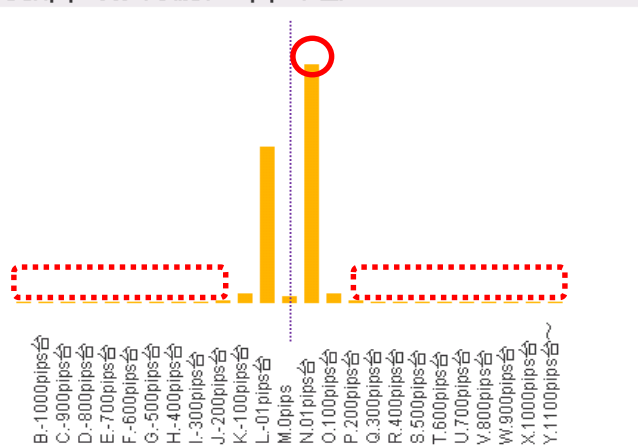
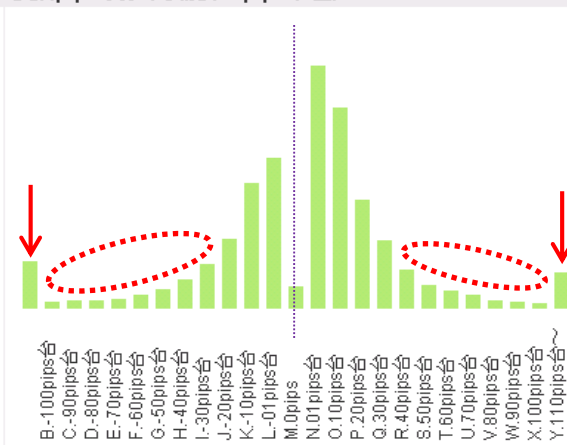
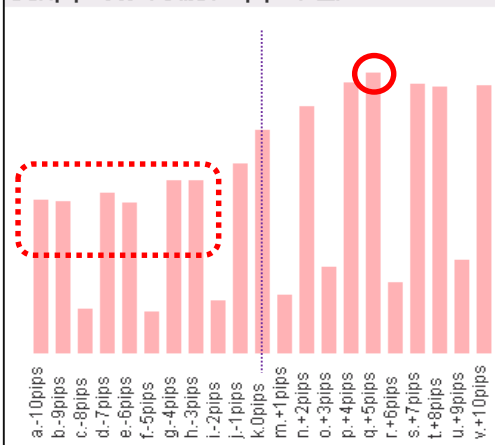
取引数量が多い人

決済pipsの分布状況(±1pips単位)

XL - □ 決済pipsの分布状況(10pips単位)

XL - † 決済pipsの分布状況(100pips単位)

XL -



2016年1月度の動向 (外為どっとコムにてお取引されたお客様の実績を集計)



(ご参考)

決済されたポジションの約94%は
24時間以内に行われたものでした



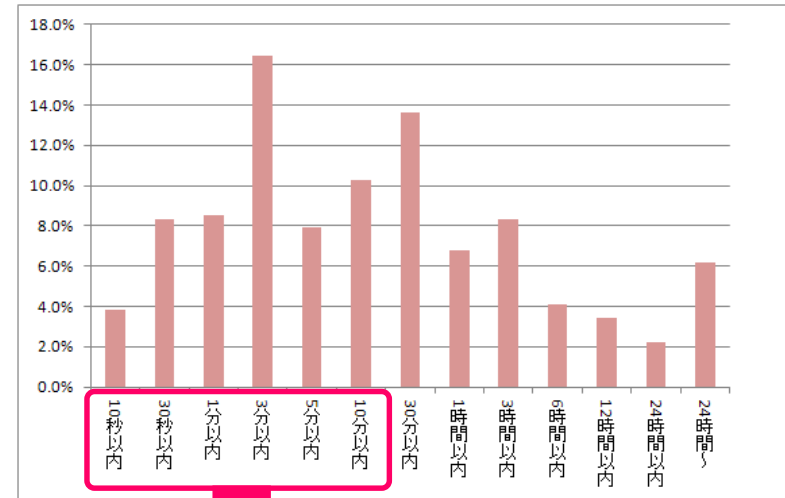
決済判断の動向その2

ポジション保有時間の確認

決済タイミング	割合
10秒以内	3.8%
30秒以内	8.3%
1分以内	8.5%
3分以内	16.4%
5分以内	7.9%
10分以内	10.3%
30分以内	13.6%
1時間以内	6.8%
3時間以内	8.3%
6時間以内	4.1%
12時間以内	3.4%
24時間以内	2.2%
24時間～	6.2%

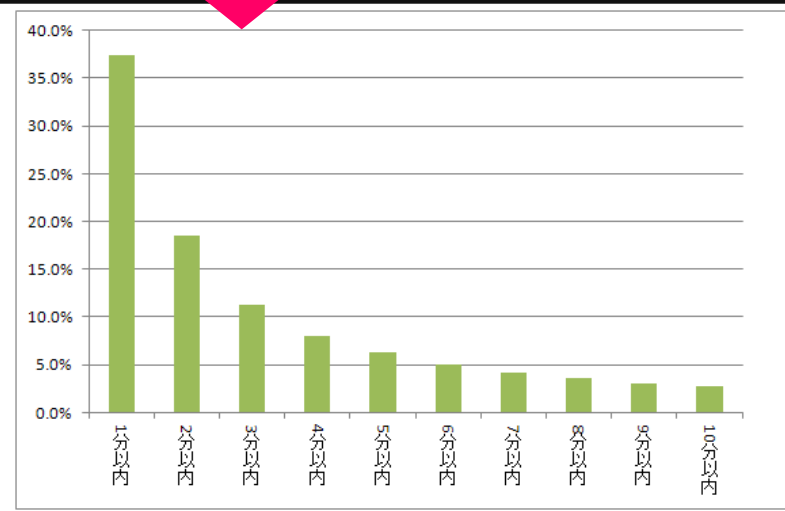
55.3% (10分以内)

38.5% (1時間以内)



10分以内に決済された取引の内訳

決済タイミング	割合
1分以内	37.4%
2分以内	18.5%
3分以内	11.2%
4分以内	8.0%
5分以内	6.3%
6分以内	5.1%
7分以内	4.2%
8分以内	3.5%
9分以内	3.1%
10分以内	2.7%



2016年2月度の動向（外為どっとコムにてお取引されたお客様の実績を集計）

スキャルピング～スイングトレード

(小資金を自分で働いて増やすスタイル)

短い期間で取り組むトレードでは、
とくに需給バランスの崩れを探すことが有用です。
ここでは需給バランスについて、時間という観点から眺めていきましょう。





短い時間で取引するなら

取引スタイルの理解と自覚

時間ごとの傾向を押さえて需給の崩れを見つける



他国の投資家は、いま何をしている時間か？

中心国	日本	イギリス	アメリカ	普段の取引量
市場	オセアニア 東京 アジア市場	ロンドン 欧州市場	NY市場	
お昼	12~13時 (東京)	20~21時 (ロンドン)	24~25時 (NY)	
時間	06:00 (オープン)	22:00	17:00	小
	15:00	07:00 (オープン)	02:00	中
	20:00	12:00	07:00 (オープン)	大
	25:00	17:00	12:00	中



スタンダードなマーケットの動静

動き	NY		オセアニア			日本		
	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30
5:00頃は、失効前のオプションによる不規則な動きに注意	[Arrow pointing right from 5:00 to 5:30]							
NYC近辺から、マーケット全体のポジション調整が入り、一時的に反対の値動きが起こる。	[Arrow pointing left from 5:30 to 6:00]							
営業日の切り替え後に、当日分のポジションメイクが行われる(その時におけるビューに沿った方向で)。	[Arrow pointing right from 6:00 to 7:00]							
7:15から7:45くらいに徐々に値動きが落ち着き、ボックス相場に入りやすくなる	[Arrow pointing right from 7:00 to 7:30]							
8:00頃から、8:50の東京指標発表や9:00の株式市場オープンに向けたポジションメイクが行われる。仕掛け的な動きがおりやすい時間帯。	[Arrow pointing right from 8:00 to 8:30]							
8:50過ぎから9:00まで、それまでと反対の動き	[Arrow pointing left from 8:30 to 9:00]							

7/20~7/24発表の経済指標

7/12~7/17発表の経済指標

日付	時間	指標名	前月(修正値)	予想	結果
7/20 (月)	15:00	(日) 6月生産者物価指数(前年比)	1.3%	1.4%	1.1%
	17:30	(日) 6月失業率	3.7%	3.2%	3.7%
7/21 (火)	18:30	(日) 日本金融政策委員会の利率発表(6月18~19日分) ・利上げの公算は、横たがはら減り続けている ・個人への発表は、4~6月期は一旦減額率が低下するものの、その後減額率を高めようとするとの観測を察した ・海外投資家は、一層にばねを押しこめて、地産地消を中心に展開している ・消費と投資の両方に対し、当局は一定度の緩急を認めることとされる ・2%の増減を想定し、必要に応じて「国の金融政策」を調整する ・経済・物価動向が上下及び物価リスク要因を併発し、必要に調整を行う			
	10:30	(日) RBA連座議 ・オーストラリアは、1%の利上げがあり、2%の利上げがある ・インフレ率は十分に抑制されており、その効果は徐々に見込み			
	15:00	(ス) 6月消費者物価指数(前年比)	+24.3%(前月比) (+24.1%)	+25.0%	+25.8%
	17:30	(日) 6月消費者物価指数(前年比)	+3.0%	+3.1%	+3.1%
7/22 (水)	10:30	(日) 第2回半期消費者物価(前年比)	+0.2%	+0.8%	+0.7%
	10:30	(日) 第2回半期消費者物価(前年比)	+1.3%	+1.7%	+1.5%
	17:00	(日) 6月消費者物価指数(前年比)	+4.8%	+5.1%	+4.7%
	17:30	(日) BOE連座議 ・金融政策の緩急を9月までに決定した ・物価動向は、輸入の増大が9月以降で減速した ・債券の発行はインフレ上昇のリスクを招く			
7/23 (木)	22:00	(日) 5月住宅価格指数(前年比)	0.3% (+0.4%)	+0.4%	+0.4%
	23:00	(日) 6月中古住宅販売件数	3.5万件 (33.2万件)	540万件	549万件
	30:00	(日) RBNZフィナンシャル・キャッシュレード	3.25%	--	3.00%
	08:50	(日) 6月消費者物価指数(前年比)	-21.50億円 (-21.72億円)	+458億円	-690億円
7/23 (木)	16:30	(ス) スウェーデン6月失業率	9.0%	9.0%	8.5%
	17:30	(日) 6月小売売上高(前年比)	+0.2%	+0.4%	--
	17:30	(日) 6月小売売上高(前年比)	+4.4%	+5.1%	--
	20:00	(日) トルコ中央銀行の発表	7.50%		
7/23 (木)	21:30	(日) 6月消費者物価指数(前年比)	28.11%	27.87%	

経済指標 週間予測カレンダー
<http://www.gaitame.com/market/yosoku.html>



需給の動勢（NYクローズ～オセアニア）

外国為替市場は人間が作り出しているものです。
そのため人間の生活やパターンが値動きへも反映されやすいことを念頭におきましょう。

動き	NY		オセアニア			
	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30
5:00頃は、失効前のオプションによる不規則な動きに注意	→					
NYC近辺から、マーケット全体のポジション調整(数量調整やポジションクローズ)が入り、一時的にそれまでと反対の値動きが起こりやすい。		⇐				
5:45頃の営業日切り替え前で流動性が少なく、レートが一方向に進んでしまう結果、ロスカットになることがあるため注意(原則として手持ちのポジションはクローズしておく)。		⇐				
上記の後、揺り戻しが発生しやすい。			⇐			
外国為替市場の営業日切り替え後に、早出の東京勢による当日分のポジションメイク(その時のトレンドや情勢に沿った方向で)。			→			
7:15から7:45くらいに徐々に値動きが落ち着き、ボックス相場に入りやすくなる					→	

- ・NYクローズ前の取引や、営業日をまたいだポジションの持ち越しは、通常よりリスクの高い行為であると認識する(ストップ予約の厚い方へ進むことがある)。
- ・営業日を越えた後の動きは、前日までの状況に素直な動きになることが多い。
⇒実需筋の参加や仲値(※)に備えた時間に入るまで。

(ご参考)



※仲値とは

仲値とは日本の各銀行が定めるその日のレートのこと。午前9時55分に確定する。

日本の銀行では、午前10時になるといっせいに貿易企業の口座(主に輸入筋)から、その取引先に対する支払い送金を外貨で行っている。

そのため各銀行はこれらの貿易企業が行う送金に対応する必要があるため、毎日の外貨保有量に照らして、仲値のタイミングまでに必要な外貨をあらかじめ調達している。

- ・仲値に対してなるべく有利なレートで調達すること
- ・必ず確保すべき外貨の絶対量を確保すること

この2点の達成のため、仲値に向けたレート動向は時間が近づくにつれ激しくなりがち。

なお仲値確定後は、マーケット全体のポジション(ロング・ショート)割合も想像しながら以降に備えることが肝要。

仲値前: 実需筋によって形成される、決済されない(戻ってこない)可能性の高いチャート

仲値後: 短期筋の新規⇒決済という往復取引によって戻ってくる可能性が高いチャート

需給の動勢（東京市場：仲値まで）

動き	日本			
	8:00	8:30	9:00	9:30
8:00頃から、 8:50の東京指標発表や9:00の東京株式市場オープンに向けたポジションメイクが行われる。 ⇒発表前予想に沿ったポジションが作られやすい	→			
8:50過ぎから9:00までは、 それまでと反対の動きでポジション調整(数量調整・決済)が行われる。	←			
9:00からは、東京株式市場の動きを見ながら、リスクオン・リスクオフを見極める動きとなる(※1)。 また9:20から9:40くらいまでは、東京為替市場がUSD/JPYを中心に考えない時間帯となる(※2)。	→			
9:30頃より(保有外貨が著しく足りないもしくは余剰と考えられる場合は9時頃から)、 仲値に向けた動きが始まり(その日の銀行保有外貨が不足なら上がる、余剰なら下がる)、 9:45までといった動きが終了する。	→			
9:50に仲値のオーダーが締め切られることによって、 各行における需給の過不足バランスが決定し、9:55の仲値に向けてプライスが動き出す 9:54:40過ぎからが最終のプライスアクション。インターバンクでは一番取引量の多い時間帯。	→			
9:55、レンジの端が仲値になった場合、そのレートがその時点の高値・安値になることが多い。 ⇒この時間帯にその水準に予約注文を置く場合には注意が必要	→			
また仲値と合わせてダブルイベント状態の場合には、複雑でトリッキーな値動きになることがある	→			

※1・2. 豪州系の指標がある場合には、仲値前後のポジションの偏りが指標発表後にどう影響するのかを見極める。

⇒市場の雰囲気が、リスクオンに振れていきそうか？リスクオフに振れていきそうか？

さらに9:30までの動きを踏まえ、

⇒(先進国かつ高金利(だった)通貨として捉えられている)AUDは売りなのか買いなのか、

⇒(USDとの相対的な比較でみた場合に)EURは売りなのか買いなのか、

⇒(さらにそれらの結果)USD/JPYは売りなのか買いなのか、を見極める。(C) Gaitame.com Co.,Ltd. All rights reserved.

需給の動勢（東京市場：ロンドン直前まで）



動き	日本(続き)									
	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30
<p>10:00、不定期に中国系の指標が出てくる。関連国の通貨（経済連携のEUR、資源国輸出のAUDなど）が反応することが多い。また10:00頃は、オプション関連の値決めやオークション形式の入札などがある場合があり、それが原因で値が飛ぶことがある。</p>										
<p>10:15頃に、いったんマーケット全体のポジションがスクウェア気味(ポジションがない状態)となり、ボックス相場に入り易い時間帯となることが多い。</p>	→									
<p>10:30に、上海株式市場がオープンする。ここでリスクオン・リスクオフが意識されるため、ほかのエマージング通貨などにも影響を及ぼす(リスクオン:エマージング買い、リスクオフ:エマージング売り)。</p>		→								
<p>11:00に東京株式市場の前場がクローズし、ここでもリスクオン・リスクオフが意識される。ニュースなどで東京、上海株式市場などが特段切り返す動きなど無いようであれば、12:00くらいまでは値動き、値幅なども落ち、ボックス相場に入り易い時間帯となる。</p>			→							
<p>12:15に、レンジのどちらか一端で停滞し、取引が活発でない場合は、東京株式市場後場オープン前くらいから、13:30くらいまでストップロス予約の厚い方ヘレイトが進むことがある。その場合はその方向がロンドン市場までの方向となることが多い。</p>					→					
<p>13:30頃より、市場間の引き継ぎ(東京市場⇒ロンドン市場)のために、ポジション調整(数量調整・決済が入り、それまでと反対の値動きが14:30くらいまで続く)時間帯となる。ボックス相場となり易い。</p>							→			
<p>14:30頃より、ロンドン勢の参入に向けた方向性がやすい時間帯となる。ストップロス予約の厚い方向への進行や、新規ポジションメイクなどの動きを含めたプライスアクションが始まる。</p>									→	

・チャートやニュース、各種指標を眺めながら、各プレイヤー(おもに短期筋)のポジションが、まだ市場に残っているのか、それとも解消されたのかを想像して取り組むクセをつける。

需給の動勢（ロンドン市場：NY直前まで）

ユーロは欧州圏で広く使われる通貨なので、貿易でもユーロ決済が可能です。そのため実需筋の為替ニーズはおもにユーロドルやユーロポンドへ反映されてくることになります。

動き	欧州											
	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30
15:00となり、ロンドン勢が参入し、マーケットの中心がEURやGBPなどに移る時間帯となる。オプション関連の値決めやオークション形式の入札などが不定期に設定される時間帯でもあり、それが原因で値が動くこともある。	⇒											
15:00頃から一方へ向かう偏った値動きがあった場合には、15:30頃に、反対の値動きで調整的な動き（数量調整・決済）が起こる。		⇒										
17:00に、ヨーロッパ関連の指標が出てくる。				⇒								
18:00になると、アジアの各センターのディーラーが一旦ポジションを閉じる時間帯となる。ロンドン勢参入以降の値動きが一旦終息に向かう時間帯でもあり、一旦マーケット全体のポジションはスクウェア(ポジションがない状態)に向かうことで、ボックス相場になり易い時間帯となる。							⇒					
19:00になると、東京のディーラーがロンドンの拠点へオーダーを移管して帰宅する。ロンドンもランチタイムへ移行するため、マーケットが薄くなる時間帯となる。直近最安値や最高値レートを寄せてストップロスを誘発する、仕掛け相場が発生する時間帯でもある。										⇒		

- ・実需筋の東京市場へ短期筋の多いロンドン市場が重なり、為替市場の値動きが活発化しやすくなる。市場参加者が変わり、別物の相場が始まることを意識して頭を切り替える。
- ・引き続き各プレイヤーのポジションの状態がどうなっているかを想像しながら取り組む。



需給の動勢 (NY市場 : NYクローズ前まで)



ドルは世界の基軸通貨であり、通常貿易による為替ニーズが発生しません。そのためNY市場から参入してくるプレイヤーのほとんどは、短期筋であると考えて取り組むことになります。

動き	米国							
	21:00	21:30	22:00	22:30	23:00	23:30	0:00	0:30
21:00頃からNY勢が市場へ参加してくる。市場が厚くなり値動きが活発化する。								
21:30に経済指標が発表されることから、その前後に大きな動きを作ることがある。								
23:00のNYオプション締め切りに向かって大きな動きを作ることがある (オプションで一定レートの権利を持っている人が、オプションで利益を出すためにオプション以外の方法で自分が有利な方向へ相場を誘導しようとする)。								
24:00のロンドンFIX (LDN版の仲値決定プロセス。基準レートと呼ぶ) に向かって、レートが動いていく。動き方や原理は東京の仲値と同じ考え方となる。								
24:00以降、市場参加者が主にNY勢だけとなるため、市場の動きが徐々に緩慢となる。								

・NY市場はロンドン勢に加え、日本の個人投資家なども参加する時間帯であり、25時頃までは1日の中でもっとも取引が多くなる特徴がある。





需給の動勢（その他：より広い期間）

1日という期間のほかに1週間、1月、1年という区分で発生している需給動向も存在します。

区分	要素	理由
毎週	月曜日	週の初めによるポジションの保有
	金曜日	週の終わりによるポジションの手仕舞い(そのときまでと反対方向へ)
毎月	5日	日本企業によるゴトビ(ゴトウビ)決済のための米ドル調達に伴う円安
	10日	
	15日	
	20日	
	25日	
	30日 月末	
毎年	2月	海外拠点を持つ企業による本国への資金還流(レパトリエーション)や、米国債の償還・利払いに伴う円高
	3月	日本企業の年度末決算に伴う円高
	4月	日本企業(とくに実需・長期筋など)の年度初めによる円安
	8月	米国債の償還・利払いに伴う円高

・このほかにもさまざまな需給動勢が存在しているが、まずは一つ一つその実効性を確認し、役立てることができるか検証することも大切。

中長期トレード

(中～大資金をお金が働いて増やすスタイル)

長い期間を使って取り組むトレードは、
それを行いうる資産と、計画的なリスク管理が求められます。



確認しておこう

そもそも中長期トレードってなに？

G 外為どっとコム

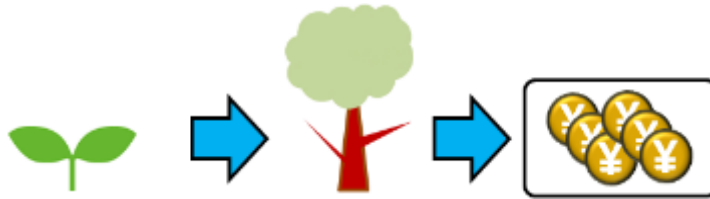
一般に、短期トレードと中長期トレードでは、お金の取り扱い方が違うことに留意しましょう。

◆短期トレード(たんに投資と呼ぶこともあります)

価値の変動する商品を保有し、

短期間 待つことで価値が上がったら、他者へ売って臨時収入にする活動のこと。

⇒FXでいうところの「**為替差益**」が該当



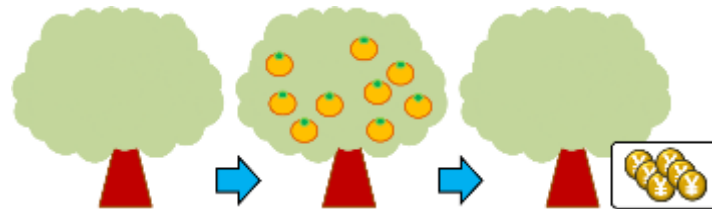
ex. 木を買って価値が上がったらその木を売却

◆中長期トレード(投資と区別する意味で、資産運用と呼ぶこともあります)

利息が発生する商品を(大規模に)保有して、

それを中長期的に持ち続けることで、毎年の収入に充てる活動のこと。

⇒FXでいうところの「**スワップポイント**」が該当



ex. 木を保有しているので、果実だけを売ったら次の果実を待つ



確認しておこう

取引スタイルの理解と自覚

中長期トレードの魅力はまず保有資産の規模で判断！



自身にとって中長期トレードが魅力的かどうかを、年間の見込み利息で検討してみましょう。

金利 0.02% の場合		金利 5% の場合		金利 10% の場合	
保有資産	見込み利息	保有資産	見込み利息	保有資産	見込み利息
100,000	20	100,000	5,000	100,000	10,000
1,000,000	200	1,000,000	50,000	1,000,000	100,000
10,000,000	2,000	10,000,000	500,000	10,000,000	1,000,000
50,000,000	10,000	50,000,000	2,500,000	50,000,000	5,000,000
100,000,000	20,000	100,000,000	5,000,000	100,000,000	10,000,000

たとえば1年分の生活費を捻出しようとする場合、上の図表であれば、5000万円の資産を金利5%で運用すると、年間250万円の利息を得られることとなります。

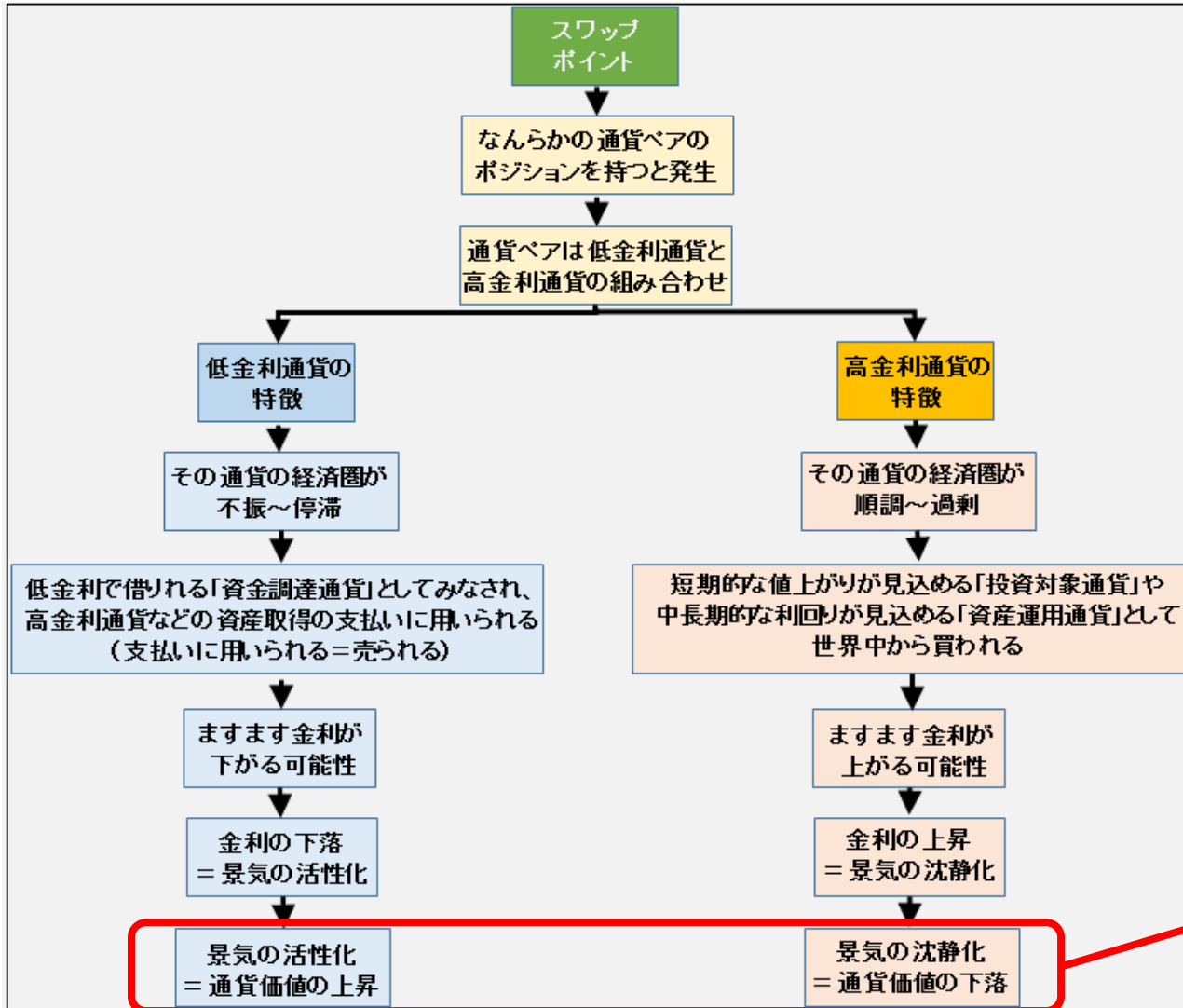
また月4万ほどお小遣いを増やしたい場合であれば、1000万円の資産を金利5%で運用すると、年間50万円の利息を得られることとなります(50万円÷12ヶ月≒4.1万円)。

このように中長期トレードでは、
 まず手持ちの資産がどれくらいの利息を生み出しているのかを検討することが肝要です。
 そのうえであらためて、これから資産を形成するのであれば短期的な視野での投資活動を、
 すでにある程度まとまった資産があるなら中長期的な視野に立った資産運用を、
 それぞれ検討してみるのがいいかもしれません。



スワップポイントによる資産運用の留意点 外為どっとコム

スワップポイントを分解して眺めることで、気を配るべきポイントを押さえましょう。



つまりスワップポイント益を主目的としたトレードは、

低金利通貨の通貨価値は上がりやすく、高金利通貨の通貨価値は下落しやすいため、

為替差損益に振り回されやすい

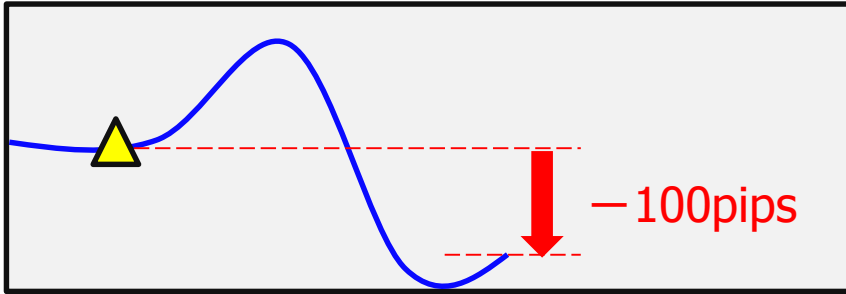
という性質を持っている！



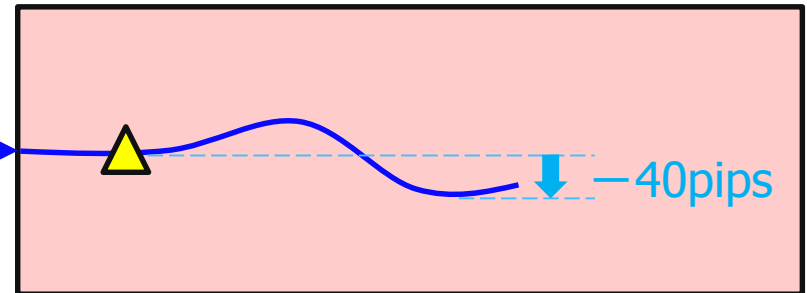
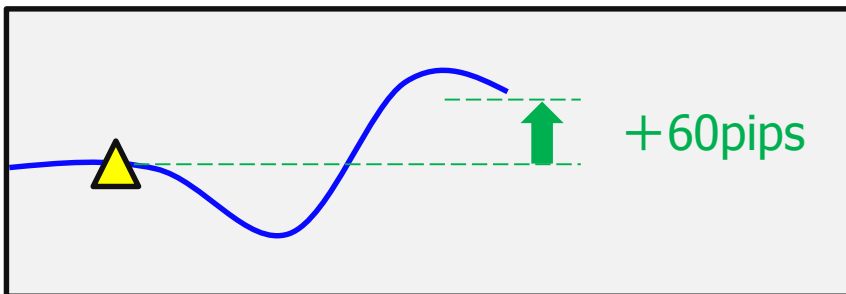
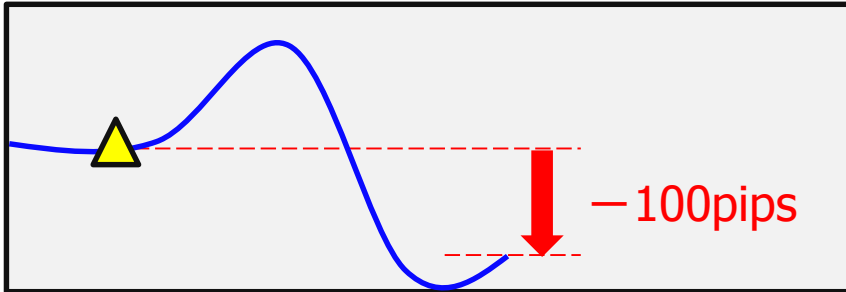
為替差損益の影響を低減するには？

為替差損益の影響を小さくするためには、複数通貨ペアのポジションを持つことが有効です。

◆ 1つの通貨ペアだけのため、為替差損益の影響を100%受けることになった例



◆ 2つの通貨ペアを同時に保有し、為替差損益の影響を40%に押さえることができた例



2つの通貨ペアの為替変動を合体し、その影響の一部を相殺！



流れを押さえましょう

ポートフォリオの構築手順

取引スタイルの理解と自覚



ポートフォリオの構築はとても手間が掛かります。まずは手順を押さえましょう。

①運用する資金額を決定する

口座内資金
出金可能額:1,000万円

ex:1,000万を運用することに決定

②レバレッジの利用有無と、利用する場合にはその最大値(1~3倍程度推奨)を決定する

レバレッジ2倍以内の取引
2,000万円相当のポジション

ex:2,000万相当(レバレッジ2倍)の取引までを許容することに決定

③高いスワップポイントの通貨ペアと、その通貨ペアの為替変動を打ち消す通貨ペアを選定し、それぞれの保有割合を決定する(※)

※. この検討過程はとても高度なため本講義でのご案内は行いません。次ページで参考書籍をご案内いたします。

④上記②で算出したレバレッジの範囲で、上記③の保有割合に沿った通貨ペアを保有する

口座内資金
保証金 出金可能額:9,201,600円 (為替変動への緩衝)

ex:1ドル=100円のとときに米ドル/円を10万通貨(1,000万円相当)を買い、40万の保証金を充てる

ex:1ユーロ=1.2ドルのとときに、ユーロ/ドルを8万3千通貨(996万円相当)を買い、39万8400円の保証金を充てる

レバレッジ2倍以内の取引	
米ドル/円10万通貨の買ポジ (1,000万円相当)	ユーロ/ドル8.3万通貨の買ポジ (996万円相当)

ex:米ドル/円買スワップが1日あたり50円/万通貨でユーロ/ドル買スワップが1日あたり-15円/万通貨の場合、

米ドル/円買:50円×10万通貨 + ユーロ/ドル買:-15円×8.3万通貨 = 500円 - 124.5

⇒1日あたり 375円(端数切捨て)のスワップポイントを得られることになる

(ご参考)

参考になる書籍

専門的な領域に属するFXでのポートフォリオ構築にあたっては、以下の書籍がお勧めです。



結喜たろう 著
「FXで究極の海外投資
為替変動に左右されない金利貯蓄型運用」

3. 取引手順の定着



行き当たりばったりでトレードするほど怖いものはありません。
一つ一つ計画的な手順を経ることで、
リスク管理を意識した取り引きを実践しましょう

取引の手順

取引は何度も行うものであり、
それが故に「なんとなく始めてなんとなく終わる」ということになりがちです。
ここでは1回1回の取引をきちんと経験値として蓄積するための方法をご案内します。





経験の蓄積を重視した取引の手順

★ 共通手順

⇒取引スタイルの切り替え

⇒相場観の割合決定

⇒相場の確認

⇒ルールの設定

⇒トレード開始

⇒振り返り



取引スタイルの切り替え(本来は頭の中で行う処理)

・以下の表を眺めて、トレード期間に沿ったスタイルに切り替えましょう。

スタイル	期間	一般的(※)な考え方←				→自分なりの心構え			
		スワップ ポイント	予想の 容易さ	価格変動 の 規模	損失や 利益の 規模	取引通貨 の 選定基準	ポジション量 (最大時)	平均 レバレッジ	自分が取り得る リスクコントロ ール方法
スキャルピング	数秒～数分	無	○	小	小	よく動いている通貨ペア	大	高	原則としてやらない、取引時に画面から離れない／新規・決済とも必ず成行
デイトレード	数秒～1日	無	○	小～中	小～中	よく動いている通貨ペア／トレンド中にある通貨ペア	大	中～高	分散エントリー／ルールに徹する／原則として成行決済(離席時はストップ・OCO・トレールも利用)
スイングトレード	1日～数週間	小～中	×～△	小～大	小～大	トレンド中にある通貨ペア	中	低～中	原則としてやらない／決済のストップ・OCO・トレールは必ず設定する
中長期トレード	数ヶ月～数年	中～大	×	小～極大	小～極大	大きく動かない通貨ペア、スワップが大きい通貨ペア	小	低	原則としてやらない／決済のストップ・OCO・トレールは必ず設定する

※上記の表は絶対的な定義ではございませんので、あらかじめご了承くださいませ。

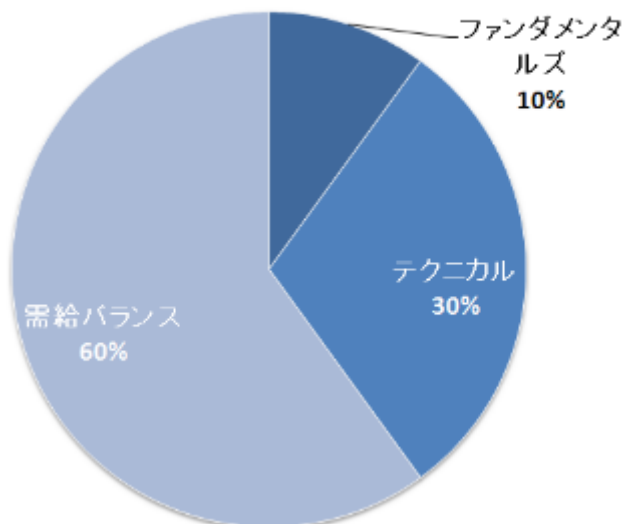


重視する情報の割合(相場観)を切り替える

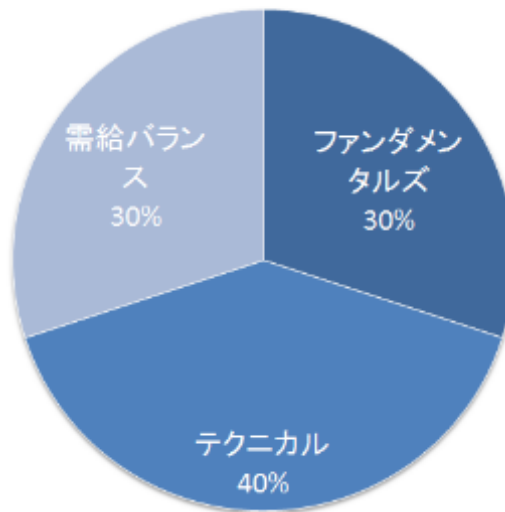


・取引スタイルによって重視している情報の割合を変えてみよう

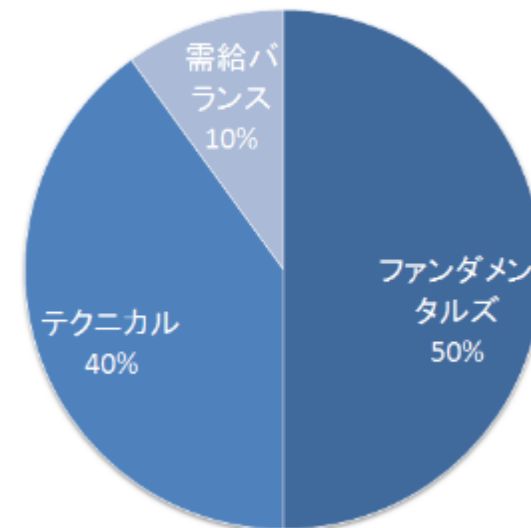
デイトレード



スイングトレード



中長期トレード



◆ファンダメンタルズ分析：

経済指標や金利など、その国の基本的な経済の状況から、**当面の原則的な方向感を頭に入れるために**利用

◆需給バランス分析：

買いたい人(需要)と売りたい人(供給)の短期的な均衡の崩れを見つけ、その**偏りに便乗するために**利用(※)
 ※突発的なニュースをきっかけにすることが多いため、ファンダメンタルズ分析に含められることもある

◆テクニカル分析：

過去の値動きから得られるデータを機械的に視覚化し、**取引のタイミングや水準・傾向を見極めるために**利用

(ご参考)

決定したルール表のイメージ

ルール表での決定内容は、チャートで見ると下図のようになります。





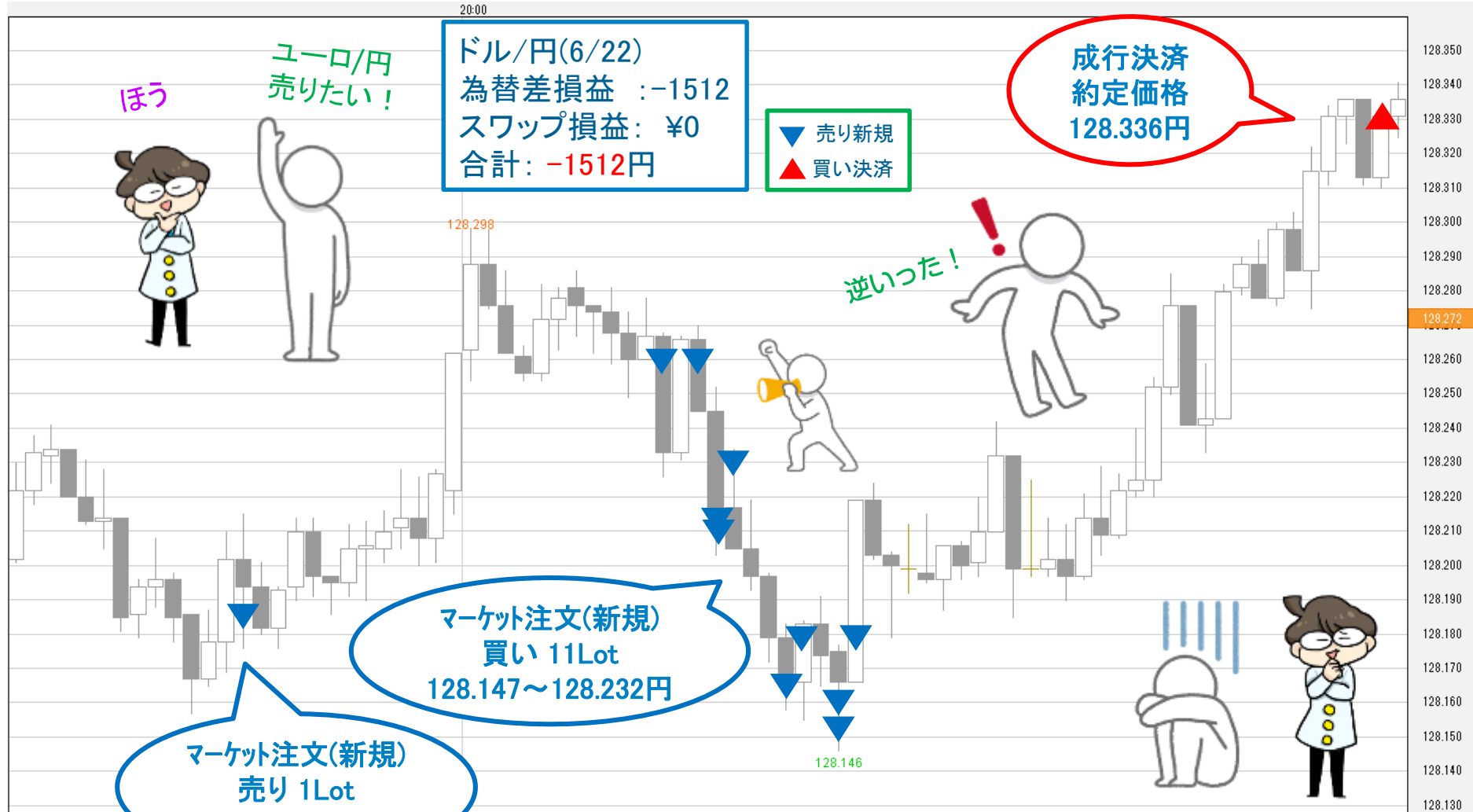
プロセスで把握: 毎回の取引に結論を出すことが大切!

取引手順の定着

振り返りの実施 (反省)

外為どっとコム

結論: 下げ局面で売れたが下落は続かず...。損切りはきっちりスピーディに!





収益管理の方法 (入力と振り返り)



取引ツールで確認したその日の取引実績を以下のような表へ入力します(手書きで十分です)。気になることがあれば都度メモをし、1か月を終えたら当月の振り返りや自己分析を行います。

2月収益管理表

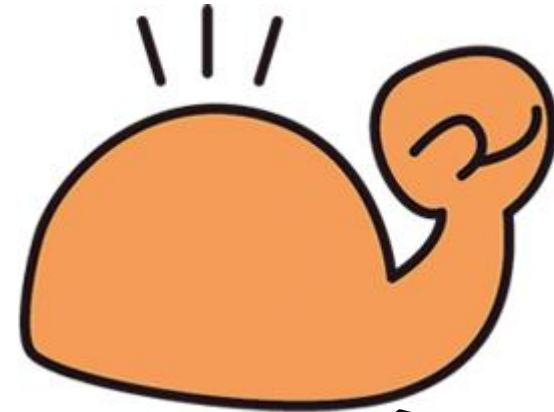
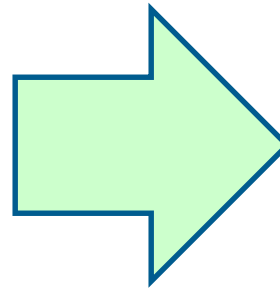
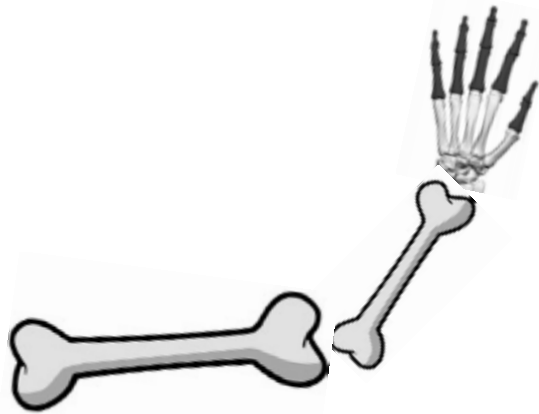
取引損益合計	390	月	火	水	木	金	1週間の合計	毎週の合計	メモ
第1週		2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月6日			勝手が分からず損切りが遅れた(2/6)
		0	0	0	473	-2,724	-2,251	-2,251	
第2週		2月9日	2月10日	2月11日	2月12日	2月13日			利益確定水準を見誤って反対に損失になってしまった。(2/11) 今週は収益がプラスに反転した!
		21	6,585	-4,400	2,135	0	4,341	2,080	
第3週		2月16日	2月17日	2月18日	2月19日	2月20日			少し長くポジションを保有してみたところ、利益を伸ばせた(2/19)
		0	614	390	13,529	-112	14,421	18,762	
第4週		2月23日	2月24日	2月25日	2月26日	2月27日			初めてボンド円のポジションを持った(2/23) ボンド円はもうやらない(2/27)
		-381	0	5,129	-1,928	-266	2,554	16,975	
曜日の合計		-360	7,199	1,119	14,209	-3,102			なんとか1か月をプラスで乗り切れた。金曜日と相性が悪い?
									当月の最終実績

📅 カレンダー等へ書き込むと手軽に取り組みます!

(ご参考)

そもそも振り返りとはなんですか？

振り返りとは、FXへ取り組むための骨に力強い筋肉をつけていくことです。



FXの骨：あらかじめ備えるもの

FXの基礎知識：マネ育スクール1限目

ツールの使い方：マネ育スクール2・3限目

自律型思考：マネ育スクール中級編

FXの筋肉：鍛えて育てるもの

相場観：1回1回の

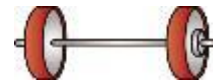
手法：丁寧な

事前ルール：取引経験

経験値：

力強い筋肉をつけるためのトレーニング

模擬実践：マネトレ！など



先人の教え

現代では、外国為替市場で活躍されている偉大な先人の方々による、
たくさんの有益な助言を見ることができます。
その中でも多くの方がおっしゃっている内容を抽出してみましたので眺めてみましょう。





取引にあたって

- ◆ 自分の取れるリスクをまず認識する
- ◆ 決めた設定以上のリスクは取らない
- ◆ 自分にあったルールやトレードスタイルを確立する
- ◆ 決めたルールに徹する
- ◆ 常に冷静な判断ができるように心がける